

大阪市立自然史博物館館報

6

(昭和47年度～50年度)

〒546 大阪市東住吉区東長居町長居公園内

大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館

昭和52年 3 月31日発行

目 次

展覽事業.....	1
調查研究事業.....	8
資料收集保管事業.....	16
普及教育事業.....	26
庶 務.....	30
利用案内.....	38

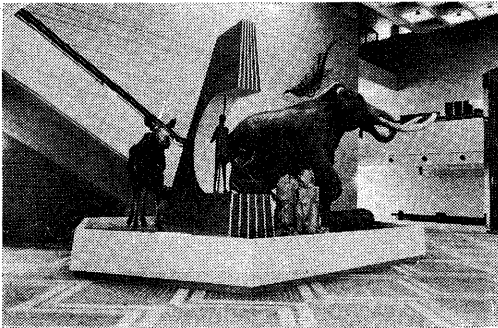
展 覧 事 業

I 常設展

植物、動物、昆虫、化石、岩石、鉱物など分野別の個々の展示や、分類学的羅列展示は必要最小限度にとどめ、人間が生活を営み、そのかわり合いを通じて、進化発展してきた自然の生いたちと変遷、現在の姿を身近な具体的なものを通じて、より一般的法則的なものと理解を深めさせるような一貫したテーマ展示を行なった。なお、展示の基本的な考え方や、全体の方針等については、既刊の館報「特別号」に、また、旧館の展示は既刊の館報にそれぞれ掲載している。

■ オリエンテーション・ホール……「自然と人間」

自然には歴史があり、人間は変化する自然の法則を利用して文明をつくり発展させてきた。自然と人間の交渉史について感覚的な把握を意図し、展示には、マチカネワニ全身骨格レプリカのほか、ナウマンゾウ復元像、ヘラジカはく製、サヌカイト標本、明治18年仮製版地図を用いている。



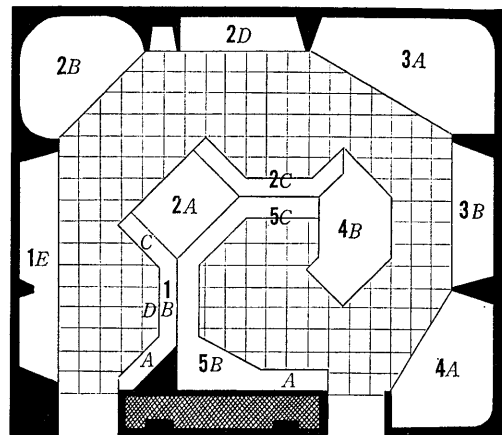
■ 第1展示室……「大阪の自然」

大阪の身近な自然の現状と人為による環境の変化原始状態の推定、日本人の自然利用の初期形態の復元、及び大阪の地盤、地下にねむる遺跡などをとりあげた。

- 1 自然は変わる
 - 1 A 港から入る外国の動物
 - 1 B 風に運ばれる虫
 - 1 C 帰化植物
 - 1 D 近畿地方の環境破壊
 - 1 E 町の生物・村の生物
- 2 野生の大阪
 - 2 A 大阪の植生
 - 2 B 照葉の森
 - 2 C 大阪の昆虫

2 D 大阪の野生のケモノ

- 3 わたしたちの自然利用
 - 3 A 文化のはじまり
 - 3 B 森の宮人のくらし
- 4 泥に立つ街—大阪の地下
 - 4 A 大阪市平野区の遺跡
 - 4 B 地下にねむる化石
- 5 淀川の水に生きる
 - 5 A びわ湖・淀川水系
 - 5 B ゆたかな生物たち
 - 5 C 水を美しく

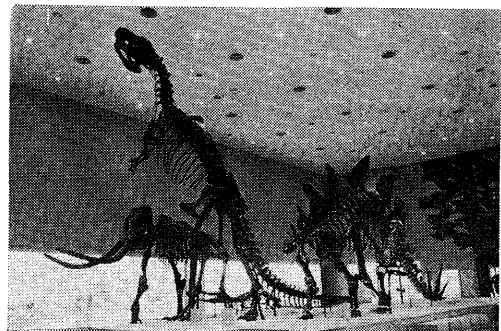


(第1展示室)

■ 第2展示室……「自然の歴史」

生物界の地史的变化をあつかい、氷期の動植物、ゾウの進化、第一瀬戸内海や和泉層群の化石、各種の恐竜等を展示した。新しい時代ほど大阪や近畿に範囲をしばり、時代をさかのぼるにつれ地球的規模の材料を扱うようにして特色をだした。

- 6 氷河時代の大阪
 - 6 A 氷河時代の落とし子
 - 6 B 地底の動物園



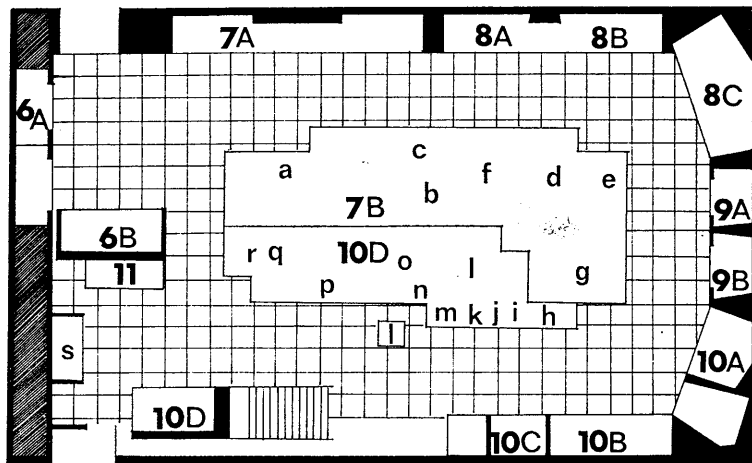
- 7 古象のあゆみ
7A 古象のあゆみ
7B ケモノの時代

- 8 瀬戸内海のおいたち
8A 大阪層群
8B かわりゆく第三紀の森
8C ビカリアのいた海

- 9 中生代から新生代へ
9A 海底火山

- 9B 石炭の形成
9C アルプス造山運動
10 恐竜とアンモナイトの時代
10A 和泉山脈
10B アンモナイトの進化
10C ジュラ紀・三畳紀の日本
10D 恐竜時代の生物

- 11 古生代の生物
地球の誕生



(第2展示室)

- a: ナウマンゾウ
b: アメリカ・マストドン
c: マチカネワニ
d: アカシゾウ
e: セリデンチヌス
f: オオナマケモノ
g: デスモスチルス
h: プロトケラトプスの巣と卵
i: トリケラトプス
j: トラコドン
k: ティラノサウルス
l: ブロントサウルスの足跡
m: ディプロドクスの頭骨
n: カマラサウルスの頭骨
o: アロサウルスの頭骨
p: ステゴサウルス
q: アロサウルス
r: 同足跡 s: デイメトロドン

■ ギャラリー……美しい鉱物・浮きイネと雑草

■ 第3展示室……「自然界の多様性」

生物の地理的多様性、棲息場所の多様性、サイズや形の多様性等多面的な角度から考え、同時に植物については人間の利用法を重点に、脊椎動物については哺乳類にいたる進化の過程を重点にして展示を行なった。最後はヒトの骨格標本を使った。

12 陸の開拓者

13 種子植物

- 13A 地中海文明をささえた植物
13B 雑穀のふるさと
13C イモとバナナの国
13D 日本には何があったか
13E 新大陸でえたもの
13F われわれが着てきた植物
13G 病苦からの解放を求めて
13H 森の資源

14 動物の世界

- 14A 深海にすむ動物
14B 巨大な動物は海にいる
14C さまざまな動物たち

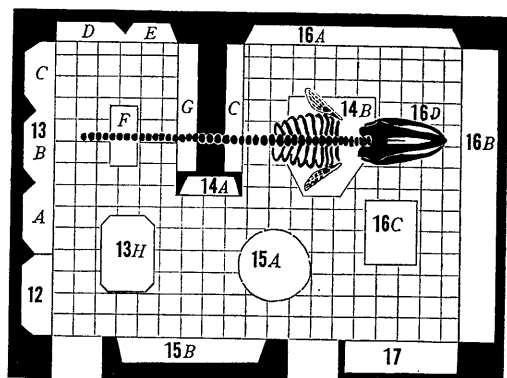
15 昆虫の世界

- 15A 昆虫の歴史
15B ところ変われば虫変わる

16 脊椎動物

- 16A サカナからケモノまで
16B ケモノの生活と骨格
16C インドゾウ
16D ナガスクジラ

17 わたしたちのからだ

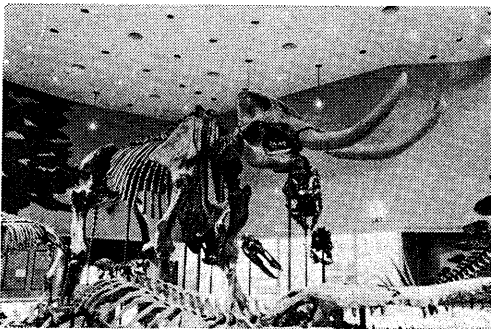


(第3展示室)

■ 主な展示品 (㊦はオリエンテーションホール、他は展示コーナー、テーマ記号)

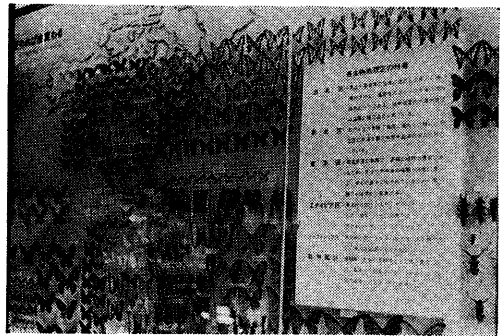
- (㊦) マチカネワニ全身骨格標本レプリカ (大阪大学教養部地学教室) 1500千円
- (㊦) ナウマンゾウ復元像 (北海道開拓記念館骨格標本より復元) 3500千円

- (対)ヘラジカはく製(♀) (日本万国博覧会, プリティッシュ・コロンビア館寄贈)
- (2B) 「照葉の森」ジオラマ 5450千円
- (3Aほか) 植物模型(クズ他一式) 550千円
- (3B~4A) 森の宮, 平野区内遺跡出土, 土器 石器 動植物遺物
- (4B) 大阪市内の沖積層・上町層貝化石, クジラ骨格
- (5A~C) 琵琶湖・淀川水系産淡水魚・貝・その他淡水生物標本
- (6A) 「深泥池の春」ジオラマ(ミツガシワ) 1060千円
- (6B) 熊石洞産獣類化石
- (7A) 現生象頭骨, 旧象化石など
- (7B) ナウマンゾウ 全身骨格標本レプリカ (北海道開拓記念館) 4850千円
- (7B) アカシゾウ全身骨格(原標本) 1000千円
- (7B) ゴンフォテリウム上・下顎骨標本レプリカ (上顎: 瑞浪市化石博物館, 下顎: 京都大学理学部地質学鉱物学教室)
- (7B) マチカネワニ 全身骨格標本レプリカ (大阪大学教養部地質学教室)
- (7B) デスモスチルス全身骨格標本レプリカ (北海道大学理学部地質学鉱物学教室)
- (7B) オオナマケモノ全身骨格標本レプリカ (アメリカ・ワシントン州立博物館) 2500千円
- (7B) アメリカマストドン全身骨格標本レプリカ (アメリカ・アリゾナ大学) 6165千円



- (7B) 二上山地型模型 807千円
- (8A~B) 大阪層群の植物・貝化石, 兵庫県白川峠等の植物化石
- (8C) 第一瀬戸内累層群の貝化石
- (10B) 北海道産アンモナイト・二枚貝化石
- (10D) プロトケラトプス巣と卵レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (10D) トリケラトプス頭骨標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (10D) ティラノサウルス頭骨標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (10D) トラコドン頭骨標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (10D) プロントサウルス足跡レプリカ 4カ所 (アメリカ自然史博物館) 315千円

- (10D) ディプロドクス頭骨標本レプリカ (アメリカ・カーネギー博物館)
- (10D) カマラサウルス頭骨標本レプリカ (アメリカ・カーネギー博物館)
- (10D) ステゴサウルス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館) 4900千円
- (10D) アロサウルス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館) 1650千円
- (10D) シーロフィシス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (10D) オルニソレステス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館) 296千円
- (10D) ステノプテリギウス全身骨格標本レプリカ (西ドイツ, シュツットガルト博物館)
- (11) デイメトロドン全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (13A~G) 有用植物模型 (野菜・果物等一式) 3400千円
- (14B) 海岸生物(岩礁海岸)生態模型 1148千円
- (15A~B) 全世界の昆虫標本(約1500頭)



- (16A) ヘミキラスピス復元模型レプリカ (アメリカ自然史博物館) 82千円
- (16A) ケパラスピス化石標本レプリカ (アメリカ自然史博物館) 30千円
- (16A) プテラスピス化石標本・復元模型各レプリカ (アメリカ自然史博物館) 82千円
- (16A) コッコステウス化石標本, 復元模型各レプリカ (アメリカ自然史博物館) 110千円
- (16A) エウステノプテロン化石標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (16A) エリオプス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (16A) シームリア全身骨格標本レプリカ (アメリカ国立博物館)
- (16A) ディアデクテス頭部化石標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (16A) リカエノプス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (16A) キノグナツス全身骨格標本レプリカ (アメリカ自然史博物館)
- (16C) インドゾウ全身骨格
- (16D) ナガスクジラ全身骨格 (大洋漁業株式会社寄贈) 2450千円 (組立費)
- (16B) 哺乳動物全身骨格標本(22種)
- (17) 人間骨格標本(全身骨格男・女各1体, 頭骨5個, 骨盤・上肢・下肢各1個) 654千円

II 特別展

■ チョウはどこから来たのか「日本の蝶・世界の蝶」
(昭和49年度)

- 期間 昭和49年10月15日～11月17日 (30日間)
- 内容 館蔵蝶コレクション約2万5千点の内、2万点を公開し、分布系統別に並べた日本産チョウと近縁の外国産種と比べて日本の蝶相、生物地理、発生起源等について展示した。

■ 石器をうみだした山、二上山——その生いたちと自然 (昭和50年度)

- 期間 昭和50年10月15日～11月30日 (41日間)
- 内容 旧石器時代から古墳時代まで、広く近畿、瀬戸内海地方の石器材料となったサヌカイトを産する二上山をとりあげ、その地学上特異な地質や自然について展示を行なった。

石器のいろいろ・サヌカイトを使った石器・自然界でのサヌカイトの分布と二上山・二上山の地質・二上山の生いたち・同時代の生物(化石)・二上山の崩壊とサヌカイトの礫・二上山は火山か——他の火山との比較・二上山の植生と生物たち

■ 特別展入館者数

種別 年度	個人		団体		無料 幼小 中学生	合計
	大人	小人	大人	小人		
49	6822	5628	1410	2111	10554	26525
50	5967	4864	1782	9312	6718	28643

III 「月の石」の展示

アメリカ宇宙船アポロ17号が1972年(昭和47年)12月、月面タウルス山から持ち帰った「月の石」を国立科学博物館より借り受け、当館所蔵の隕石、テクタイトと並べて展示した。

- 期間 昭和49年4月26日～8月14日、
昭和50年8月16日～10月31日

- 場所 オリエンテーションホール

IV 特別陳列

■ 水生昆虫 (旧館・昭和47年)

農薬の大量使用や汚水の流入による水質の悪化で絶滅にひんしているゲンゴロウ、タガメなど水生昆虫を3階おどろき場に展示し、環境保全を訴えた。

■ 尾花コレクション (トンボ・チョウ・ガ)

- 期間 昭和50年4月1日～4月30日
- 内容 尾花茂氏寄贈標本の展示、日本各地のチョウ、近畿のトンボ、河内長野市天見のガ

■ 昆虫標本の作り方とユニット・ボックスシステム

- 期間 昭和50年5月初旬～8月31日

■ チョウ・ガ・ハチの巣

寄贈を受けた、チョウ、ガのうち、約3500点を紹介した。南米パラグアイのチョウ類もふくまれている。ほかに、スズメバチ各種とその巣の標本など。

- 期間 昭和51年1月16日～3月14日
- 内容 久留コレクション(日本の蝶)約1500点
中山コレクション(北九州のガ)約1000点
後藤コレクション(山梨県のガ)約1000点
西阪コレクション(パラグアイの蝶)約1000点
ハチの巣(スズメバチ各種とその巣)

■ 平野区内の遺跡群から発掘された自然遺物と生活遺物

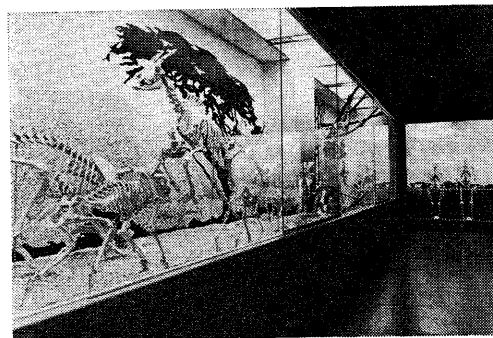
平野区内の長原、瓜破、八尾市亀井などの弥生時代～古墳時代の遺跡から発掘された自然遺物と生活遺物を展示した。

- 期間 昭和51年3月21日～5月16日
- 内容 シカ・ウマ・イノシシなどの脊椎動物の骨、コガネムシ・コゲンゴロウモドキ・タマムシなどの昆虫類、コメ粒・クリ・桃・その他の木の実などの自然遺物、土器などの生活遺物

V 入館者数

■ 昭和47年度(旧館)

種別 月別	団体	幼児・ 小学生	中学生	高校・ 大学生	一般	計
4	322	1,251	323	264	1,480	3,640
5	190	895	227	258	1,000	2,570
6	1782	616	180	240	817	3,635
7	227	884	259	224	646	2,240
8	948	1130	336	222	833	3,469
9	146	726	174	174	603	1,823
10	651	810	227	136	708	2,532
11	851	657	160	152	551	2,371
12	146	400	113	125	258	1,042
1	1501	455	67	105	420	2,548
2	2720	460	84	159	451	3,874
3	1595	890	238	196	556	3,475
計	11,079	9,174	2,388	2,255	8,323	33,219



(第3展示室 16B、17)

■ 昭和48年度……………閉館

■ 昭和49～50年度

区分 月別	49 年 度				50 年 度			
	有 料		無 料 (幼・小・ 中学生)	計	有 料		無 料 (幼・小・ 中学生)	計
	大 人	小 人			大 人	小 人		
4	8,868	9,138	0	18,006	6,545	6,753	517	13,815
5	33,271	30,596	4,531	68,398	8,909	9,456	5,411	23,776
6	13,326	13,705	8,283	35,314	4,679	5,278	3,288	13,245
7	5,617	6,437	246	12,300	3,612	3,660	73	7,345
8	9,112	10,527	0	19,639	7,096	7,549	0	14,645
9	7,051	5,411	1,490	13,952	4,278	3,859	3,187	11,324
10	6,663	5,306	8,569	20,538	3,588	9,737	3,539	16,864
11	6,285	6,555	5,504	18,344	5,309	6,824	3,692	15,825
12	1,935	2,662	831	5,428	1,053	2,001	37	3,091
1	1,991	2,494	519	5,004	1,572	2,216	519	4,307
2	2,224	5,280	3,235	10,739	3,527	5,142	2,938	11,607
3	7,812	9,104	3,446	20,362	6,792	8,926	4,359	20,077
計	104,155	107,215	36,654	248,024	56,960	71,401	27,560	155,921

■ 団体入館者の内訳

● 昭和49年度（有料）

区分 月別	大 人				小 人							合 計	
	団 体 数			人 数	団 体 数						人 数	団体数	人数
	婦人会 など	高校・大 学ほか	計		子供会 など	小学校	中学校	高等 学校	養護教育 諸学校	計			
4	2		2	44	2					2	94	4	138
5	5		5	614	28			1		29	1,447	34	2,061
6	2	3	5	1,483	23		1			24	1,213	29	2,696
7	2		2	527	15	2				17	813	19	1,340
8	3	1	4	832	26	2			1	29	1,063	33	1,895
9	8	2	10	957	19					19	778	29	1,735
10	7 (7)	1	8 (7)	773 (665)	10 (6)				2 (2)	12 (8)	808 (505)	20 (15)	1,581 (1,170)
11	5 (4)	4 (2)	9 (6)	1,338 (745)	8 (6)	13 (8)	1		1	23 (14)	2,771 (1,606)	32 (20)	4,109 (2,351)
12	2		2	141	2	3	2			7	527	9	668
1				38	1	2				3	368	3	406
2				200		21	1	1	1	24	3,218	24	3,418
3	2		2	238	6	12				18	1,553	20	1,791
計	38 (11)	11 (2)	49 (13)	7,185 (1,410)	140 (12)	55 (8)	5	2	5 (2)	207 (22)	14,653 (2,111)	256 (35)	21,838 (3,521)

● 昭和50年度（有料）

月別	大 人				小 人							合 計	
	団 体 数			人 数	団 体 数						人 数	団体数	人 数
	婦人会 など	高校・大 学ほか	計		子供会 など	小学校	中学校	高等 学校	養護教育 諸学校	計			
4		1	1	869	14	3	1			18	1,404	19	2,273
5	2	6	8	1,524	28	18	2		1	49	4,459	57	5,983
6	2	2	4	424	16	3	1		1	21	1,355	25	1,779
7	2	4	6	525	7	2			1	10	491	16	1,016
8		1	1	504	12	3				15	728	16	1,232
9				80	4		1			5	167	5	247
10	6 (5)	1	7 (5)	873 (597)	6 (6)	36 (29)	5 (3)	1 (1)	1 (1)	49 (40)	7,527 (5,884)	56 (45)	8,400 (6,481)
11	1 (1)	6 (6)	7 (7)	1,185 (1,185)	11 (11)	14 (14)	3 (3)		1 (1)	29 (29)	3,428 (3,428)	36 (36)	4,613 (4,613)
12	2	1	3	151	1	4	1			6	811	9	962
1	1	1	2	101	2	3				5	346	7	447
2	3		3	353	3	15				18	2,427	21	2,774
3	2	1	3	470	10	15	2			27	2,526	30	2,996
計	21 (6)	24 (6)	45 (12)	7,059 (1,782)	114 (17)	116 (43)	16 (6)	1 (1)	5 (2)	252 (69)	5,630 (9,312)	297 (81)	32,689 (11,094)

(注) 下段 () 内は、特別展期間、数は内数

● 無料団体の内訳

月別	49 年 度							50 年 度						
	団 体 数						人 数	団 体 数						人 数
	保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護教育 諸学校	計		保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護教育 諸学校	計	
4								1		3			4	517
5	1	1	15 (7)	6 (5)	2 (1)	25 (13)	4,531 (1,923)	4	4	17	1	1	27	5,411
6	5 (2)	5	18 (6)	6 (3)	2 (1)	36 (12)	8,283 (2,562)	5	3	6	1		15	3,288
7				3 (1)	1	4 (1)	246 (76)	1					1	73
8							0							0
9	3	5	3 (1)		1	12 (1)	1,490 (172)	4	10	4	1	1	20	3,187
10	10 (4)	3 (1)	32 (15)	8 (5)	1 (1)	54 (25)	8,569 (5,294)	2	2	16	3		23	3,539
11	2 (1)	3 (3)	21 (6)	2 (2)	5 (3)	33 (26)	5,504 (755)	5	1	10	1	4	21	3,692
12			3 (17)	1	1	5 (26)	831 (4,417)	(5)	(1)	(10)	(1)	(4)	(21)	(3,692)
1	2	2	2		1	7	519	1		4	1	1	7	519
2	5	1	15			21	3,235	1	3	13			17	2,938
3	5	3	14	1		23	3,446	2	4	19	2	1	28	4,359
計	33 (6)	23 (1)	123 (35)	27 (14)	14 (2)	220 (58)	36,654 (10,782)	27 (7)	27 (3)	92 (23)	10 (4)	8 (4)	163 (41)	27,560 (6,718)

(注1) 下段 () 内は市外の学校、数は内数 () 内は特別展期間、数は内数

(注2) 昭和49年4月～11月までは、市外学校の校外学習も無料扱いであった。

Ⅵ 出版・印刷物

名 称	対 象	規 格	ページ数	備 考
展 示 解 説 第1集 地球は生きものでいっぱい 展示解説 第2集	一般市民 児 童	B 5 B 5	56 68	1974年（有料） 1975年（有料）
リーフレット №1～11 (№1) ね ん り ん (№2) マチカネワニ (№3) ホ ネ と 歯 (№4) ゴ キ ブ リ (№5) ク ジ ラ (№6) ド ン グ リ (№7) サ ソ リ (№8) 世界一小さいこくもつ テフ (№9) 石 炭 (№10) カ ヘ イ セ キ (№11) ゾ ウ の 歯	入 館 者	B 5	2 (一葉)	毎月1号を原則 (無料)
チョウはどこから来たか 特別展「日本の蝶・世界の蝶」解説書	一般市民	B 5	24	1974年10月（有料）
石器を生みだした山・二上山 特別展解説書	〃	〃	36	1975年10月（有料）

調査・研究事業

I 研究体制

当館では、5部門の研究室に、12名の学芸系スタッフを配置している。

地史研究室	千地万造 (Manzo CHIJI) 両角芳郎 (Yoshiro MOFOSUMI) 石井久夫 (Hisao ISHII)	館長、学芸員 学芸員 学芸員
第四紀研究室	那須孝悌 (Takayoshi NASU) 樽野博幸 (Hiroyuki TARUNO)	学芸員 学芸員
動物研究室	柴田保彦 (Yasuhiko SHIBATA) 布村 昇 (Noboru NUNOMURA)	主任学芸員 学芸員
昆虫研究室	日浦 勇 (Isamu HIURA) 宮武頼夫 (Yorio MIYATAKE)	学芸課長、 学芸員 学芸員
植物研究室	瀬戸 剛 (Ko SETO) 岡本素治 (Motoharu OKAMOTO) 布谷知夫 (Tomoo NUNOTANI)	学芸員 学芸員 学芸員

II 個別調査研究 (昭和49—50年度)

千地万造 (地史研究室)

- (1) 山梨県富士川上流 (下部地域) の新第三系の微化石層序学的研究
- (2) 神戸—尼崎沖の海底ボーリングにおける上部洪積層の化石有孔虫群集の研究
- (3) 大阪府における山地の自然破壊の現状についての調査

両角芳郎 (地史研究室)

- (1) 掛川地方新第三系の生層序区分に関する研究
西郷層群の浮遊性有孔虫化石層序を調べ、西郷層群の上限は *Orbulina* Datum より下位であることを確認した。また、総研A「日本の新第三系の生層序と放射年代」の研究分担者として、それまで行ってきた掛川層群の生層序学的研究結果などをもとに、日本地質学会第81年会 (札幌) において、池辺ほか9名の連名で「日本の上部新第三系の年代層序」と題して講演した。
- (2) 第1回太平洋地域新第三系国際会議 (1-ICPNS) の準備
1-ICPNS (開催は51年5月) 組織委員会専門委員として、Excursion 3 (掛川地方) の準備を行った。

石井久夫 (地史研究室)

- (1) 長野県北西部における糸魚川—静岡構造線の研究

- (2) 野尻湖周辺の地質調査および発掘調査 (野尻湖発掘調査団の一員として)

那須孝悌 (第四紀研究室)

- (1) 山口市下東および荻峠遺跡 (ともに弥生時代) の植物遺体および花粉の研究
- (2) 青森県石亀遺跡 (縄文時代晩期) の花粉分析研究
- (3) 京都市深泥池の地史学的研究: 「深泥池団体研究グループ」に参加し、池の現植生、底質、花粉化石の研究。(以上昭和49年度)
- (4) 野尻湖層の花粉分析学的研究: 昭和50年3月に行なわれた「第6次野尻湖発掘」に参加し、発掘の折に採取した野尻湖層および沖積層の花粉分析を行ない更新世末以降の植生変遷を研究
- (5) アカウキクサ属の研究: 近畿地方の第四系から得られたアカウキクサおよびオオアカウキクサ化石の研究
- (6) 兵庫県田能遺跡 (弥生時代) の試掘調査
- (5) 沖縄本島北部の段丘調査および花粉分析
- (8) 長野県北安曇郡下のシダ類孢子標本の収集
- (9) 和歌山県大塔山伐採現場で木材標本を収集
- (10) 日本産シダ類孢子の形態子的研究 (以上昭和50年度)
- (11) 大阪市およびその周辺の遺跡の調査研究: 森の宮遺跡 (縄文時代以降)、亀井遺跡 (弥生〜古墳時代) などから出土する植物遺体、花粉を収集・研究 (以上両年度継続)

樽野博幸 (第四紀研究室)

- (1) ステゴドン属の分類。アカシゾウなど「パラステゴドン」グループの分類についての研究を行った。関連する地域 (明石市など) での地質調査と、各地に分散している標本の調査を行った。(両年度継続)
- (2) 野尻湖産哺乳類の研究。昭和49年度には「内陸盆地総研」に参加し、野尻湖から産出した哺乳類化石について研究した。昭和50年3月に行われた第6次発掘に参加した。昭和50年度には、「野尻湖周辺の人類遺跡ならびに自然環境に関する総合研究」に参加。哺乳類化石の分類を担当した。(両年度継続)
- (3) 大阪市および周辺の遺跡から出土する自然遺物に関する調査。森の宮遺跡、亀井遺跡などから出土した脊椎遺体を収集、分類し、過去の大阪の自然環境復元のための研究を行った。(両年度継続)
- (4) 京都市深泥池の地史学的研究。「深泥池団体研究グループ」に参加し、深泥池の底質と歴史について

研究した。(昭和49年度)

柴田保彦(動物研究室)

(1) 西南日本島嶼の両生爬虫類相。

琉球列島・甌列島・平戸及びその周辺の島々などを調査した。

(2) 爬虫類性中薬の基源

亀板については当館研究報告29号に発表した。

布村 昇(動物研究室)

(1) 大阪湾および和歌山県沿岸の海産等脚目(甲殻類)の分類学的研究。

1973年以降採集をつづけていた大阪湾沿岸岩礁海岸の等脚目および当館所蔵の大阪湾産等脚目を研究し22種(5新種を含む)を第1報(当館研究報告29号)として記載報告したが、ひきつづき、のこりを、第2報(当館研究報告30号)に記載報告する予定である。また、和歌山県日置川町沿岸より4新種を当館研究報告28号に記載報告した。

(2) 日本産ウミナナフシ科(甲殻類、等脚目)の分類学的研究。

わが国のウミナナフシ類の研究は全く未開拓であったが、東海大学所蔵のオホーツク海産1新種、国立科学博物館所蔵の駿河湾産1新種の両深海産ウミナナフシを当館研究報告30号に記載報告する予定。また、九州大学天草臨海実験所所蔵のウミナナフシ11種(6新種を含む)を天草臨海実験所研究報告に記載報告する予定。

(3) 日本産ワラジムシ(陸産等脚目)の分類学的研究。
陸産等脚目の分類学的研究を開始し、ヒメフナムシの1新種を当館研究報告30号に記載発表する予定。

(4) 琉球列島の陸産等脚類の分類と分布。

1975年6~7月に八重山・宮古・沖縄の各群島にわたり調査をした。

(5) 渦虫類の分類学的研究。

原順列目渦虫類の分類について研究中である。

(6) 大阪湾沿岸岩礁海岸動物相の調査・研究。

宇坪直子・中嶋康裕・福井康雄・井上淑美・竹之内孝一の5氏とともに研究グループをつくり、海岸動物の生息場所の喪失と水質汚染の顕著な大阪湾各地の海岸動物相の現状を調査し、自然史研究1巻9号等に発表した。

(7) 北陸地方沿岸の海岸動物相の研究。

北陸地方、とくに富山湾および能登半島沿岸の海岸無脊椎動物相の特徴をいくつかの動物群を通じて調べるため高岡市雨晴海岸で予備調査を行なった。

(8) 日本産タナイス目(甲殻類)の分類学的研究
等脚目と類縁の深いタナイス目についてもその分類学的研究を開始した。

(9) メラネシア産カニ類の分布。武田正倫博士(国立

科学博物館)とともに当館が1958年におこなった調査の収集品のうち、カニ類のリストを作り、当館研究報告30号に発表する予定。

日浦 勇(昆虫研究室)

テーマ: 日本列島昆虫相発達史

昆虫の分布・分類・生態の研究と化石調査の結合から現在のフォーナの形成過程を知ることが目的とする。昭和48~50年度には新館建設と開館にともなう職務のためにまとまった研究は出来なかった。

(1) 環境の人工化による蝶相の変化、原生林・二次林・農村・都市の四者での蝶相の差を知るために年間ルートセンサスを行った結果を比較することを計画、昭和47年に樫原市箸喰(農村)と長居公園(都市)を、昭和48年に春日山(原生林)の調査を行なった。前二者については自然史研究に発表した。

(2) フィリピン群島の蝶相、先の共同調査の採集品およびその後収蔵の資料を加え、日本に関係ある種属を中心に分類・分布上の知見を求めた。シロチョウ科を第2・3報として当館研究報告に発表した。

(3) 近畿地方のトンボ相。関西トンボ談話会の共同事業としての基礎資料集の編集に当り、収蔵資料目録に第1部(第6集)、第2部(第7集)、第3部(第8集)を発表した。

(4) 近畿地方のオサムシ分布。近畿オサムシ研究グループの一員として滋賀・奈良・京都・福井・大阪で調査を行った。未だ発表に至らない。

(5) 対馬の昆虫相、日本の生物相に及ぼした朝鮮海峡の意味を知るために資料収集を行ったが発表に至らない。ただタイワンモンシロチョウの食草と分布について宮武学芸員と共同で日本昆虫学会大会(昭和50年松戸市)で講演した。

(6) 昆虫化石の研究(宮武頼夫の項参照)

宮武頼夫(昆虫研究室)

(1) 日本産キジラミの分類と生活史の研究。

近畿地方の調査は、のべ18回、カシ類に寄生する2種のキジラミを新たに発見し、生活史の概要をもつかむことができた。その他の種類についても、生活史に関する多くの新知見を得た。1975年6月には対馬で5日間調査し、多くの未記録種を得た。分類学的な研究の一つとして、春日山原生林の調査の際に得られた2新種を、当館の研究報告29号に記載発表した。

(2) 外国産キジラミの分類研究。

ハワイのビショップ博物館から借用している、ニューギニア産のキジラミの内、ヒゲブトキジラミの一新種を研究報告28号に記載発表した。韓国・台湾など各地のコレクションについては、研究続行中。

(3) 日本産コナジラミの分類と生活史の調査研究。
世界各地で施設園芸の害虫として有名なオンシツ

コナジラミ・イチゴコナジラミが、1974年秋に、我が国へも侵入しているのが発見されてから、全国から同定依頼があいつぎ、両種の分布や寄主植物がくわしく判明した。その結果を、広島農試の中沢氏と共著で日本半翅類学会から発表した。1975年9月18・19日に広島市で開催された日本植物防疫協会主催の、野菜病虫害防除に関するシンポジウムで、「オンシツコナジラミに関する研究の現状と問題点」のうち、分類学的知見について話題提供をした。また、1975年11月18日に東京で行なわれた農林省主催の、発生予察職員中央研修会で「オンシツコナジラミの分類と生態」と題して講演を行なった。オンシツコナジラミ以外の種についても、近畿地方を中心に調査し、現在研究続行中である。

(4) 昆虫化石の研究

日浦学芸課長と共に、岐阜県瑞浪市から得られたコハクに含まれる節足動物（主として昆虫）について調査し、それぞれのグループの専門家に研究を依頼する一方、コハクに含まれる同翅類昆虫について研究し、その結果を瑞浪市化石博物館報告第1号（1974）に発表した。また、鳥取県辰巳峠から得られた新第三紀のセミ化石について、同地の智頭農林高校の衣笠氏と共同で研究した。

(5) 大阪府の蛾相調査

少ない収蔵資料を補うためと、大阪の蛾相の概略をつかむ目的で、東大阪市の枚岡公園で1973年春から1976年3月までの間に、のべ32回灯火採集を行なった。また1974年秋からは箕面公園でも10回灯火採集を行なった。ともに、近々結果をまとめて発表の予定である。

瀬戸 剛（植物研究室）

(1) 近畿地方シダ植物相の研究（両年度継続、館報5号参照）

(2) フィリピン産シダ植物の分類学的研究（先年度より50年度継続館報5号参照）

(3) アカウキクサの形態と分布についての研究

京都西山の大阪層群の地層および山口県の弥生時代の遺跡から、那須学芸員によって検出されたアカウキクサ属のマスラ化石について、同学芸員と協同で現生種との比較を行い、また現生種についての前年度からの研究をまとめて当館研究報告29号に発表した。（両年度継続）

(4) 大阪平野のヤナギ属種類相調査

末調査のまま失われようとしている大阪平野のヤナギを、那須学芸員の協力を得て、淀川、武庫川両河川（河川敷と堤防）を中心に調査した。（両年度継続）

(5) 西宮市甲山周辺の湿地の植生とその保護について

の調査。西宮市の委嘱による。（昭和49年度）

(6) 芦屋市いもり池の植生とその保護についての調査

いもり池は六甲山中の標高530mにあるサギスゲの生育する小湿地である。芦屋市の依頼を受けた日本自然保護協会関西支部の委嘱により、当館那須・岡本両学芸員と協同で植生および花粉分析調査を行なった。（昭和49年度）

岡本素治（植物研究室）

(1) ブナ科の分類学的研究。

昭和49年度には特に冬芽の形態について、昭和50年度には特に実生の形態解析による系統分類について研究した。（両年度継続）

(2) 近畿地方の残存照葉樹林の資料収集と原植生復元の試み。

(3) 種子及び果実標本の収集とその自然システム内での位置づけの試み。

布谷知夫（植物研究室）

(1) 林床植生の構造と動態についての研究。

京都大学上賀茂試験地、スギ天然林の植生調査、および刈取調査を、のべ16日間行なった。現在資料の解析中である。

(2) 間伐による林床植生への影響についての研究。

京都大学芦生演習林内のブナ林の強度の間伐による林床植生の変化を、5点の永久プロットを設置することにより、継続調査中である。

(3) 自然教育のカリキュラム策定のための研究。

博物館利用者の意識調査や動線調査などを行ない、自然教育のためのカリキュラム内容について研究を行なった。また、特定研究宮地班の協力者として、秋田、山形、東京、神奈川、山口、など各県下の博物館の教育活動の調査を行なった。

III 研究業績の公表

■ 当館発行の刊行物

昭和49・50年度においては、当館の研究成果を発表する刊行物として、「大阪市立自然史博物館研究報告」第28号及び第29号、「自然史研究」第1巻第8号及び第9号を発行した。これらの内容一覧を次にかかげる。*は館外研究者である。〔Λ〕は当館業績番号。

大阪市立自然史博物館研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

第28号（昭和49年12月28日発行）48頁3図版。

布村 昇：和歌山県日置川町沿岸の等脚目(1)

（英文）〔Λ179〕

布村 昇：北九州室見川河口より採集されたウミナナフシ（等脚甲殻類）の一新種。（英文）

〔Λ180〕

宮武頼夫：ニューギニアから発見されたヒゲブト

キジラミ属の一新種。(英文)〔№181〕

日浦 勇・ロミュアルド E. アラガー*: 大阪市立自然史博物館・ヒリピン国立博物館共同調査によって採集されたヒリピン産蝶の研究, 第2報: シロチョウ科キチョウ属。(英文)〔№182〕

北川尚史*・児玉 務*: 粉川昭平・堀田満両博士採集北ボルネオサバ州の苔類Ⅱ。(英文)〔№177続〕

第29号(昭和50年10月31日発行)96頁21図版

樽野博幸・紀川晴彦*: 明石市中八木より発掘されたアカシゾウ化石について。〔№185〕

布村 昇: 大阪湾沿岸岩礁海岸産等脚目(1)。(英文)〔№186〕

布谷知夫: 大杉大小屋谷, 西の河, 亀谷の植物社会。〔№187〕

瀬戸 剛・那須孝悌: 日本産アカウキクサ(*Azolla*)化石の発見と現生種についての知見。〔№188〕

日浦 勇・ロミュアルド E. アラガー*: 大阪市立自然史博物館・ヒリピン国立博物館共同調査によって採集されたヒリピン産蝶の研究, 第3報: シロチョウ科。(英文)〔№185〕

柴田保彦: 香港より輸入された中薬“亀板”の基源。〔№189〕

池辺展生*・千地万造・両角芳郎: 浮遊性有孔虫からみた熊野層群の *Lepidocyclina* 層準。〔№190〕

宮武頼夫: 春日山原生林から発見されたトガリキジラミ属の二新種。(英文)〔№191〕

自然史研究 (Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第1巻第8号(昭和50年3月28日発行)16頁。

「淀川其自然保護を考える」と題して, 昭和49年10月27日当館で開催されたシンポジウムの記録である。日本生態学会近畿地区会との共催, 日本自然保護協会関西支部の後援であった。内容は, 千地万造: 淀川改修はこれでよいのか。筒井嘉隆*: 淀川問題の経過。縄田照美*: 淀川の治水と河川敷公園。堀田満*: 淀川河川敷公園。吉良竜夫*: 淀川高水敷の植物群落について。矢野悟道*他: 淀川河川敷における原植生の保護と管理について。紀平肇*: 魚類相の変動と現状。木村英造*: 魚類相の変動と現状のコメント。高田直俊*: 淀川の鳥類の現状。長谷川博*: 鳥類の河川敷利用についてのコメント。高田直俊*: 淀川河川敷の自然保護と治水。川那部浩哉*: 動物から見た淀川の自然保護。日浦勇・村上興正*(座長): 総合討論。森下正明*: おわりに。

第1巻第9号(昭和50年11月30日発行)16頁。

布村 昇・宇坪直子*・中嶋 康裕*・福井 康雄*・井上淑美*: 1974年度における大阪湾沿岸岩礁海岸動物相。〔№192〕

なお, 当館収蔵資料目録については, 24頁を参照されたい。

■ 研究室別報文一覧

昭和49・50年度において, 前記「当館発行の刊行物」以外に学会誌等に発表された研究業績, 当館友の会機関誌「Nature Study」その他の雑誌に載せられた普及記事, 単行本・論文集などへの執筆については, 所属の研究室ごとにまとめて発行順に列挙した。複数の学芸員による共同執筆のものについては, 筆頭者の欄へおさめた。口頭による学会等の発表で, 要旨が印刷公表されていないものについては, 登載しない。「Nature Study」は ns と略記した。

(動物研究室)

柴田保彦(1974・10) ミズオオトカゲの密航。

ns. 20(4): 11

—— (1974・10) 新着標本。エリオプスとリカエノプス。ns. 20(4): 12

—— (1975・2) フクラスズメ(らしい蛾)の野外での越冬例。ns. 21(2): 10

—— (1975・3) 新着標本。大昔のサカナの化石など。ns. 21(3): 11

—— (1975・3) 岸和田の阪南港でみつかったミヤコトカゲ。ns. 21(3): 12.

—— (1975・6) 長居公園でみた外国のカメ ns. 21(6): 8。

—— (1975.) 中国で薬用にされたアカマダラ。新潟両生爬虫類愛好会会誌。(3)

布村 昇(1974・6) カギムシ——新着標本から ns. 20 (5.6): 12.

—— (1974・7) 海水浴にいつて出合う動物。ns. 20(7): 11—12。

—— (1974・11.21) イソヘラムシ(わかやまの生物)。朝日新聞(和歌山版)朝刊

—— (1974・12・19) ヒラムシ(わかやまの生物)。朝日新聞(和歌山版)朝刊

—— (1975・1) 深海にすむ動物。ns. 21 (1): 2—4。

—— (1975・1) 貝でないのカイ?(1)。ns. 21 (1): 11。

大阪海洋生物研究グループ[布村昇ほか4名*](1975・3) 大阪湾岩礁海岸動物相(1)。ns. 21 (3): 5—8。

布村 昇(1975・3) 大阪湾岩礁海岸動物相(2)——ウミグモ類——。ns. 21 (3): 8

- 布村 昇 (1975・3) 熊石洞 (岐阜県) で採集されたキョウトメクラヨコエビ (新称)。ns. 21 (3) : 11
 ——— (1975・5) 小さな動物を飼う (1) アメリカザリガニ。ns. 21 (5) : 11
 井上淑美*・布村昇 (1975・5) 大阪湾岩礁海岸動物相 (3) ヒザラガイ。ns. 21 (5) : 11—12。
 布村 昇 (1975・9) 貝でないのカイ? (2)。ns. 21 (9) : 5
 ——— (1975・9) フラジムシのはなし (1)。ns. 21 (9) : 7—5。
 ——— (1975・10) 貝でないのカイ? (3)。ns. 21 (10) : 12。
 布村 昇・宇坪直子* (1976・2) 大阪湾岩礁海岸動物相 (7) 巻貝その 1。ns. 22 (2) : 2—5。
 宇坪直子*・布村昇 (1976・3) 大阪湾岩礁海岸動物相 (8) 巻貝その 2。ns. 22 (3) : 9—10。

(植物研究室)

- 瀬戸 剛 (1974・12) 長居公園のタケ、ササ見本園とタケの種類のみわけ方。ns. 20 (12) : 5—8。
 瀬戸 剛・岡本素治 (1975・2) イモリ池の植生。芦屋市イモリ池の植物学術調査報告書 (芦屋市建設部環境保全課発行) : 1—22, 25—29, 33—36。
 瀬戸 剛 (1975・10) 大阪湾にやってきた珍しいカヤツリグサ ns. 21 (10) : 9
 岡本素治 (1974・4) 公園の植物学 (1) 冬芽について ns. 20 (4) : 8—11。
 ——— (1974・9) 公園の植物学 (2) ユリノキ・ns. 20 (9) : 2—4。
 ——— (1974・10) どんぐりの貯蔵。ns. 20 (10) : 2—3。
 ——— (1975・9) 新着標本紹介ウバユリ。ns. 21 (9) : 6
 ——— (1975・9) 灰皿のドングリ。ns. 21 (9) : 9—10。
 ——— (1976・2) アカガシの不思議な性質。ns. 22 (2) : 6。
 布谷知夫 (1975・2) 土の中の生物。ns. 21 (2) : 11—12。
 財団法人京都市自治問題研究所編 [布谷知夫ほか 12 名* 分担執筆] 北部周辺地域の将来的整備計画の策定に関する調査報告書, 84 頁 [執筆者の分担部分は明示されていないが, 布谷執筆は 13—17 頁]
 ——— (1976・2) 採集をどう考えるか, 自然教育の方法を考えよう。ns. 22 (2) : 8。

(昆虫研究室)

- 日浦 勇 (1974・7) 町の生物・村の生物。ns. 20 (7) : 2—4。
 ——— (1974・8) 大阪市立自然史博物館と昆虫部門の展示。昆虫と自然。9 (8) : 2, 12—13。

- 日浦 勇・宮武頼夫 (1974・12) 瑞浪コハクの化石節足動物について。瑞浪市化石博物館報告。 (1) : 385—392, pls. 111—112。
 日浦 勇 (1975・1) ツチガエルの集団? 越冬例。ns. 21 (1) : 9。
 ——— (1975・2) 1 センチ以上の昆虫誌——はじめに——。ns. 21 (2) : 9—10。
 ——— (1975・3) 無関心からナチュラリストへ。全科協ニュース。5 (2) : 3—4。
 ——— (1975・3) 自然観察入門——草木虫魚とのつきあい——。中公新書 389。中央公論社。
 ——— (1975・3) 1 センチ以上の昆虫誌 1。ゴキブリ (1)。ns. 21 (3) : 2—4。
 ——— (1975・5) 1 センチ以上の昆虫誌 2。ゴキブリ (2)。ns. 21 (5) : 2—6。
 日浦 勇・樽野博幸 (1975・8) 葛城山麓でひろったホンダイタチ。ns. 21 (8) : 8
 日浦 勇・桂孝次郎 (1975・8) 新たに日本 (対馬) から発見されたカメムシ。ROSTRIA (24) : 134。
 日浦 勇 (1975・10) 1 センチ以上の昆虫誌 3。ゴキブリ (3)。ns. 21 (10) : 2—4。
 ——— (1975・12) 中之島でウラギンシジミを発見。ns. 21 (12) : 8
 ——— (1975・12) ニホンミツバチ? の巣。ns. 21 (12) : 8。
 ——— (1975) [分担執筆] トンボ目。石原保監修: 学研中高生図鑑③昆虫Ⅲ バッタ, ハチ, セミ トンボほか。学習研究社
 ——— (1976・2) 1 センチ以上の昆虫誌 4。スズメバチ (1)。ns. 22 (2) : 9—12。
 ——— (1976・2) アカシアを食べるツマグロキチョウ。ns. 22 (2) : 12。
 ——— (1976・2) 採集をどう考えるか, 博物館の野外行事のうつりかわり。ns. 22 (2) : 7。
 ——— (1976・3) 採集をどう考えるか, 子供が遊べる自然。ns. 22 (3) : 11。
 宮武頼夫 (1974・8) 港に入る虫——木材検疫を中心として——。ns. 20 (8) : 9—12。
 ——— (1974・12) 瑞浪コハクに含まれる同翅類昆虫の化石について。瑞浪市化石博物館報告。 (1) : 417—420。
 ——— (1975・1) 長居公園の蛾 1。シロオビフユシヤク。ns. 21 (1) : 9
 ——— (1975・2) シロジュウニホシテントウの越冬場所の一例。ns. 21 (2) : 7。
 ——— (1975・2) 長居公園の蛾 2。フクラスズメ ns. 21 (2) : 10。
 ——— (1975・3) 擬木 (ぎぼく) で越冬するテ

ントウムシ類。ns. 21 (3) : 11

—— (1975・5) タガメの飼育。ns. 21 (5) : 13—16。

—— (1975・5) 博物館学芸員の仕事のわりふり。全科協ニュース。5 (3) : 3。

—— (1975・6) 長居公園の蛾3。糖蜜採集。ns. 21 (6) : 8

—— (1975・6) 侵入害虫イチゴコナジラミ (新称) の発生。植物防疫。29 (6) : 9—12。

宮武頼夫・中沢啓一*。(1975・8) オンシツコナジラミをはじめとする *Trialeurodes* 属のコナジラミ数種の寄生植物と分布。18頁プリント 日本半翅類学会)。

宮武頼夫 (1975) [分担執筆] キジラミ科・コナジラミ科。石原保監修：学研中高生図鑑⑩昆虫Ⅲバッタ、ハチ、セミ、トンボほか。学習研究社。

—— (1976・1) コナジラミ類の生態と被害。農薬グラフ。(57) : 2—5。

(地史研究室)

千地万造 (1974・6) 新しい自然史博物館の発足にあたって——会員のみなさんにお礼の言葉——。ns. 20 (5・6) : 2

—— (1974・7) 主張。討論会「古生物と博物館」から。博物館研究。9 (7) : 1

千地万造・両角芳郎 [ほか8名*] (1974・8) 日本の上部新第三系の年代層序 [講演要旨プレプリント]。日本地質学会第81年学術大会 [1974年9月] 講演要旨 : 141。

千地万造 (1974・11) 自然から学ぶ市民の教室。グラフおおさか (大阪市市長室広報課発行) ⑧ : 表紙うら。

—— (1974・12) 瑞浪層群有孔虫化石について。瑞浪市化石博物館報告。(1) : 233—234。

—— (1975・2) 大阪市立自然史博物館 (Osaka Museum of Natural History)。地質ニュース。(246) : 30—35。

—— (1975・3) 恐竜の世界 [増刷版] 42頁。大阪市立自然史博物館友の会。

—— [分担執筆] (1975・5) [第10章原生動物] 2有孔虫, C生態。井尻正二監修：古生物学各論第2巻無脊椎動物化石・上 : 29—44。築地書館。

—— (1975・12) 野尻湖博物館に期待する。国土と教育 臨時増刊35号 : 68。

—— [座長] (1976・1) パネルディスカッション。これからの博物館施設とサービス～とくに身障者に対する配慮について～。第23回全国博物館大会 [昭和50年10月・東京] 報告書 : 43—77。

千地万造・朝日稔*・佐藤治雄* [座長団] (1976・3) 総合討論。昭和50年度自然保護指導員セミナー [昭和51年1月・大阪] 報告書, 自然保護をいかに進めるか——指導員のための手引 (財団法人日本自然保護協会資料第9号) : 1, 29—59。

千地万造・布谷知夫 (1976・3) 自然史博物館と自然保護教育。文部省科学研究費特定研究(2)「科学教育」研究課題 初等中等教育における霊長類を中心とした自然保護教育の指導法の開発研究, 昭和50年度宮地班報告書 (財団法人日本モンキーセンター発行) : 49—58。

両角芳郎 (1976・3) 採集をどう考えるか, 化石を材料とした行事の場合。ns. 22 (3) : 12。

石井久夫 (1974・6) フェンタの化石。ns. 20 (5・6) : 8

—— (1975・1) まちかにせまった野尻湖の発掘・ns. 21 (1) : 5—8。

—— (1975・1) 中央構造線について。ns. 21 (1) : 10。

(第四紀研究室)

第四紀古植物研究グループ [那須孝悌ほか11名*] (1974・2) 日本におけるウルム氷期の植生の変遷と気候変動 (予報)。第四紀研究。12 (4) : 161—175。

那須孝悌 (1974・12) フウの葉について。ns. 20 (12) : 9—10。

—— (1974) 花粉分析について。考古学と自然科学。(7) : 59—63。

那須孝悌・飯田祥子* (1975・1) 青森県石亀遺跡 (縄文晩期) の花粉分析。青森県田子町石亀遺跡第2・3次発掘調査概報 (平安博物館発行) : 6—10。

那須孝悌 (1975・2) イモリ池湿地の花粉分析結果。芦屋市イモリ池の植生学術調査報告書 (芦屋市建設部環境保全課発行) : 23—24, 30—32。

—— (1975・3) 山口市下東遺跡土壌中の植物遺体および花粉 (予報)。山口県埋蔵文化財調査報告第30集, 国道9号・山口バイパス 下東遺跡・荻峠遺跡 (建設省山口工務所・山口県教育委員会発行) : 195—205。

—— (1975・3) 山口市荻峠遺跡貯蔵穴中の植物遺体および花粉 (予報)。同上 : 229—236。

—— [分担執筆]。(1975・3) 花粉分析。山口県埋蔵文化財調査報告第31集, 主要遺跡遺構確認調査 No. 2, 菊川町岸本遺跡 (山口県教育委員会発行) : 10—11, pl. VII

深泥池団体研究グループ [那須孝悌・樽野博幸ほか15名*] (1976・1, 3) 深泥池の研究(1), (2)。地球科学。30 (1) : 15—38, 30 (2) : 122—140。

樽野博幸 (1974・8) アカシゾウの骨格模型。ns. 20(8): 2—3。

—— (1974・9) 化石の採集, クリーニングと模型の作り方。ns.20(9): 9—11

—— (1974・11) デイメトロドン。ns. 20(11): 10

—— (1974・12) 新着標本アメリカンマストドン。ns. 20(12): 11

古脊椎動物グループ〔亀井節夫*・樽野博幸執筆〕

(1975・3) ヒグマの化石。井尻正二監修・野尻湖発掘調査団著: 野尻湖の発掘: 172—175。共出版。

古脊椎動物グループ〔樽野博幸ほか13名*〕 (1975・3) ナウマンゾウの化石。同上: 124—153。

樽野博幸 (1975・8) 和歌山県加太町城ヶ崎でみられるフルートキャスト。ns.21(8): 12。

—— (1976・3) 象の歯——日本一大きなナウマンゾウと日本一年とったナウマンゾウ——。ns. 22(3): 2—4。

■ 研究業績の業績番号順一覧

当館の業績番号(Contribution No.) のついた報文は、従来、その番号順に館報へ掲載してきた。しかし、館員の報文すべてにこの番号が付されるわけではなく、館の業績全体を総覧するには不便なので、今後はこの方式による掲載を廃止する。前号(5号)14頁には、業績番号171までを記したが、それ以後、昭和48年度末までに印刷公表された業績番号付報文は8篇ある(Nos. 172-178, 183)。これ補遺として次に記す。

172. 千地万造・池辺展生* (1973) いわゆる *Lepidocyclusina Miogypsina* Zone と *Miogypsina Operculina* Zone の時代についての2, 3の問題。地質学論集。(8): 77—84, pl. 1

173. 森島正夫*・千地万造 (1973) 有孔虫の飼育と生体に関する2, 3の観察。九十九地学(京都大学教養部地学教室発行)(8): 36—44。

174. 日浦 勇 (1973) 奈良県橿原市箸喰および大阪市長居公園における蝶の生態(1972年の観察)。自然史研究。1(7): 51—64。

175. 鳥倉巳三郎* (1973) 日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第5集。1—60+1—13, pls. 1—122。

176. 大平仁夫* (1973) フィリピン産コメツキムシ科について(大阪市立自然科学博物館・フィリピン国立博物館1969年共同調査隊採集品)。(英文)。大阪市立自然科学博物館研究報告。7(1): 1—10, pl. 1。

177. 北川尚史*・児玉務* (1973) 粉川昭平・堀田満両博士採集北ボルネオサバ州の苔類I。(英文)。同上 7(1): 11—21

178. 宮武頼夫 (1973) 日本産マダラキジラミ属について。(英文)。同上。(27): 23—28, pl. 2。

183. 関西トンボ談話会〔編集責任者: 日浦勇〕 (1974) 近畿地方のトンボ第1部ムカシトンボ科, ムカシヤンマ科, サナエトンボ科。大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第6集: 1—27。

昭和49・50年度には、業績番号165, 179—182, 184—192, 208が発表された。これらは10頁, 25頁をみられたい。

IV 文部省科学研究費をうけて行った研究

昭和49・50年度においては、当館は「科学研究費補助金取扱規程第2条第4号に規定する学術研究機関」の指定を受けえなかったため、学芸員は研究分担者または研究協力者として研究に参加するにとどまった。

分担課題については、学芸員の個別調査研究の項(8頁以下)をみられたい。

■ 総合研究(A)(B)

区分	年度	研究課題	研究代表者	当館の研究分担者
A	49	日本新三系の生層序と放射年代	池辺展生 (大阪市大)	千地万造 両角芳郎
A	49	内陸盆地の第四系に関する総合研究	郷原保真 (信州大)	樽野博幸
A	50	野尻湖周辺の人類遺跡ならびに自然環境に関する総合研究	歌代 勤 (新潟大)	千地万造 那須孝悌 樽野博幸 石井久夫
B	50	環太平洋新三系の対比——特に生層序基準面の検討と総括	池辺展生 (大阪市大)	千地万造

■ 特定研究

*研究協力者

研究領域	年度	研究課題	研究代表者	当館の研究分担者
科学教育	50	初等中等教育における霊長類を中心とした自然保護教育の指導法の開発研究	宮地伝三郎 (モンキーセンター)	千地万造 布谷知夫

V 学会・研究会・サークル活動の育成

当館では、学芸員が中心となって研究グループの育成に努めている。このうちのいくつかは、研究室に事務局を設置している。

■ 自然保護教育研究会

自然保護教育の理念・具体的なカリキュラム作りなど。50年度には、教育の理念と、博物館の利用のしかたについて討論を行った。月1回、研究会を開き15名前後の参加がある。事務局設置: 植物研究室
設置期間: 昭和49年11月～51年3月。世話人: 布谷

■ 大阪微化石研究会

大阪・京都・奈良を中心とした微化石研究者の集まりで、情報交換や形式ばらない研究発表・討論などの内容で、2か月に1回の割合で例会を行っている。

る。昭和50年度末までに、機関紙 News of Osaka Micropaleontologists (“NOM,”) 1～4号を発行した。事務局設置：地史研究室，設置期間：昭和47年より。世話人：両角。

■ 阪神わかやま野尻湖友の会

1975年3月25日から4月1日にかけて行なわれた野尻湖発掘には、大阪からも多くの一般市民が参加し、学術的にも科学の普及という面でも、多大な成果をあげた。その後、発掘参加者が集まり、次の発掘を目標に、学習を重ね、さらに輪を拡げるために、「阪神わかやま野尻湖友の会」が作られ、当館に事務局が置かれている。会員は、小・中学生から教師、研究者にいたるまで幅広く、1976年3月31日現在190名である。会の活動として、新聞を発行し、普及講演会、映画会、野外見学会を行うほか、専門別グループ（哺乳類、人類考古、植物など）ごとに、学習会、見学会を行なっている。

事務局設置：第四紀研究室，設置期間：昭和50年7月1日より5か年間，世話人：那須，樽野，石井。

■ 日本半翅類学会

半翅類昆虫の研究者の全国的な学会で会員約200名，会の運営，総会や例会の開催，会誌 Rostrum（年2回発行）の編集・発刊などの世話を行っている。事務局設置：昆虫研究室，設置期間：昭和50年1月より5か年（予定）。世話人：日浦・宮武。

■ 大阪海洋生物研究グループ

20歳代の5～6名のメンバーで、大阪湾沿岸の海岸動物相の調査を中心に、広く海洋生物の生態・行動・系統分類などの知識の交換や勉強会を行っている。世話人：動物研究室，布村。

■ 日本自然保護協会関西支部

（事務所 大阪市南区順慶町通2—51（稲畑産業内）の連絡所。自然保護に関する調査・研究、情報収集、普及活動等の事業の立案，事業の実施についての協力，会員への連絡等。

世話人：千地万造

期 間：当分の間

■ 関西トンボ談話会

この会については、すでに十数年の歴史があるので、サークル育成の好例として、次にくわしく記すこととする。

大阪には蝶蛾の研究・愛好者の日本鱗翅学会、鞘翅目の日本甲虫学会があったが、トンボについては皆無であったので、市民層を中心に学生を加え、トンボ学の研究と普及をすすめるためのサークルを博物館で育成することを意図し、昆虫研究室の世話で発展させた。会員数は100名に達し、毎冬集談会を館で開き、シーズンには共同野外調査を行ない、そ

の成果は会の機関誌と館の収蔵資料目録の形で逐次発表している。

昭和37（1962）年4月1日靱の旧館会議室にて発足集会
西日本のアマチュア研究家23名に通知を出し、うち15名出席。世話役日浦。

昭和38年4月7日第2回集会18名参加。

6月23日能勢町天王ヘグンバイトンボの観察会
（第1回野外調査）

昭和39年4月5日第3回集会 事務局津田滋会員へ

昭和40年3月機関誌「gracile」第1号発行

昭和42年11月26日第10回集会，事務局谷幸三会員へ

昭和46年3月 会員数58名，機関誌11号，3月に第19回集会。

昭和48年館の移転期に2回だけ奈良市で集会開催。

昭和49年6月会員数76名機関誌16号，3月

第28回集会 3月「近畿地方のトンボ」第1部発行。

昭和50年12月会員数95名，機関誌18号，3月第31回集会
3月「近畿地方のトンボ」第2部発行。

■ 近畿オサムシ研究グループ

昭和40年に発表した日浦の論文「金剛生駒山脈のオオオサムシ属」を批判的に克服するための研究グループが昭和46年4月に結成された。香里園におけるトウヨウ象発掘が契機であった。メンバー6名（うち4名は大学生であったが現在いずれも社会人）同年11月それまで個人のもっていたデータを集めて「近畿地方におけるオサムシの地理的分布（予報）」を研究報告25号に発表した。その後東は濃尾平野～糸魚川から西は岡山・四国一円の分布調査を行なうとともに、生活史の研究と平行して、現在の分布圏が生活をとおして形成されるプロセスを解明することに努力している。昭和50年からまとめの段階に入り、終了すればこれまで閉鎖的だったグループを別の形態に発展させることを意図している。調査にともなって得られた標本はすべて館に寄贈され、館の収集事業に貢献している。

VI 大学博物館学講座その他の学生実習

49年8月27日 ～9月1日	帝塚山大学 博物館学講座	15名	博物館学実習 （各研究室）
50年7月29日 ～8月3日	“	8名	“ （“）
50年7月1日 ～8月15日	信州大学繊維学部 繊維学科	中島 喜弘	昆虫学学外実習 （昆虫研究室）

以上のほか、国学院大学・関西大学・竜谷大学・鈴峯女子大学等の博物館学講座の学生による施設見学があった。

資料収集保管事業

I 主な購入標本（昭和49・50年度）

■ 地史研究室

（49年度）

カリフォルニア産デスモスチルス臼歯 3点 45千円
ディプロドクス頭骨・カマラサウルス頭骨

（レプリカ）・レピドデンドロンほか古

生代植物化石 6点 288千円

ディメトロドン・エリオプス・リカエノプス

全身骨格（レプリカ） 3点 1,860千円

ヘミキラスピスほか古生代魚類化石（レプリカ

および模型） 6点 304千円

岐阜県産ゴンホテリウム頭蓋骨（レプリカ製作委託）

1点 230千円

朝鮮産ゴンホテリウム臼歯（製作委託） 2点 180千円

可見サイ下顎（製作委託） 1点 90千円

（50年度）

ヒラコドン下顎 1点 30千円

サヌカイト（“カンカン石”） 3点 40千円

石質隕石 1点 180千円

東北地方新第三紀植物化石 65点 400千円

二上山地形模型（製作委託） 670千円

■ 第四紀研究室

（49年度）

アメリカンマストドン 1点 5825千円
（ほかに組立費 340）

（50年度）

オオナマケモノ（マチカネワニと交換） 1点 2500千円
（組立費）

アカシゾウ頭骨模型 1点 600千円

■ 動物研究室

（49年度）

ニュージーランド産海産貝類 101点 50千円

沖縄・奄美及び紀州産海産無脊椎動物 47点 45千円

（50年度）

ニュージーランド産海産貝類 71点 80千円

琉球列島産海産無脊椎動物 24点 15千円

■ 植物研究室

（49年度）

ウコン模型 1点 200千円

ソラマメ模型（サヤ豆5点、豆7点） 74千円

（50年度）

植物繊維標本（麻布など） 5点 40千円

布藤コレクション（布藤昌一氏収集植物腊葉標本）

約4万点 4,100千円

サツマイモ原種模型 3点 400千円

■ 昆虫研究室（記録のため昭和48年度も加えた）

（48年度）

カナダ及びヒマラヤ産ウスバアゲハ3種 6点 21千円

メガネアゲハ4亜種 8点 12千円

東南アジア産蝶6種 8点 20千円

（49年度）

外国産蝶14種 34点 100千円

セレベス産蝶43種 138点 250千円

パラワン島産蝶174種 1,812点 300千円

鳥取県産昆虫化石（セミ・テントウムシ）2点 10千円

（50年度）

マレーシア産セミ・ビワハゴロモ 15点 2千円

東南アジア産直翅類・セミ11種 63点 60千円

インド産カマキリ・ビワハゴロモ6種 22点 10千円

東南アジア産セミ10種 170点 90千円

II 寄贈標本及び収集標本

■ 地史研究室

(1) 寄贈標本

（49年度）

和泉層群産貝類化石 50点 若原 正博氏

そろばん玉石（玉髄） 15点 永瀬 幸一氏ほか

牟婁層群産生痕化石など 3点 山本 勝吉氏

（50年度）

ヤベイナほか赤坂産化石 5点 森崎光三郎氏

(2) 主な収集標本

主として標本収集の目的で出かけた出張は次のとおり。まだ登録までに至っていないものが多い。カッコ内は担当者（C：千地，M：両角，I：石井）。*印は文部省科研費による出張。

（49年度）

6月13日 奈良県榛原 山辺層群貝化石など(M, I)

*7月16日～19日 和歌山県東牟婁郡 微化石 (C)

*10月5～8日 甲府市 微化石 (C)

11月6～8日 鳥取市 貝化石および微化石 (M)

*12月15～19日 甲府市 微化石 (C)

2月10日 福井県鮎川 貝化石 (館員一同)

3月9日 滝ノ池 和泉層群化石 (普及行事)

3月17日 信貴山 岩石 (M)

3月26～28日 長野市 棚層有孔虫化石 (C)

（50年度）

4月25日 信貴山 岩石	(I)
6月12日 妙見山 岩石	(I)
7月17日 二上山 岩石	(I)
9月7・10日 二上山 岩石	(I)
12月11日～15日 甲府市 微化石	(C)
12月10日～16日 新居浜市周辺 岩石・鉱物	(I)
2月12日 亀の瀬 岩石	(M)
*2月28・29日 掛川市 貝化石・微化石	(M)
3月22日 友ヶ島 和泉層群化石	(M)

■ 第四紀研究室

(1) 寄贈標本

(50年度)

アカシヅウ白歯化石など 10点 春成秀爾氏

(2) 主な収集標本

(49・50年度)

大阪市および周辺の遺跡より出土した自然遺物

比較用現生脊椎動物骨格

比較用現生花粉および孢子

■ 動物研究室

(1) 寄贈標本

(49年度)

和歌山県南部町産エビ網採集品(カニなど)

	37点	山本虎夫氏
紀州産テヅルモヅル	6点	〃
大阪湾産海産無脊椎動物	22点	浜谷 巖氏
大阪湾産テヅルモヅル	4点	〃
オーストラリア産カギムシ	14点	M.R.Gray氏
南アフリカ産カギムシ	1点	南アフリカ博物館
マレーシア・オーストラリア産ヒル	8点	西川 喜朗氏

岡山県蒜山産ミミズ	1点	〃
小豆島産メガネカラッパ	1点	樋出 誠詢氏
和歌山県串本町産オニイソメ	1点	西川 輝昭氏
田辺湾産ホウキムシ	2点	田名瀬英朋氏
ヘビ寄生シタムシ・線虫	3点	原 幸治氏
和歌山県産ウミウシ・ヒザラガイ	7点	中嶋 康裕氏
六放サンゴ	1点	戸嶋隆之助氏
ハリガネムシ	2点	桂 孝次郎氏
四国産ヤマドリ	2点	久保田弥生氏
サバ産ミズオオトカゲ	1点	松本 勝善氏
三重県産シロマダラ	1点	富永 修氏
各地産両生爬虫類	13点	〃
奈良県産ヒミズ	1点	〃
鹿児島県産カナヘビ	1点	田中 聡氏
台湾産ヘビ	3点	朱 耀沅氏
小笠原産トカゲ・ヤモリ	2点	中村 慎吾氏
サイチョウ頭部	2点	山崎 實氏
カリマンタン産ミヤコトカゲ	1点	友松 重光氏

奈良県産タカチホヘビ	1点	湊 宏氏
各地産両生爬虫類	4点	西川 喜朗氏
小豆島産ウシガエル	1点	樋出 誠詢氏
伊豆諸島産オカダトカゲ	4点	原 幸治氏
岡山県産タワヤモリなど	9点	〃
奄美大島産タシロヤモリ (50年度)	5点	松井 孝爾氏
クモガニの1種	1点	中嶋 康夫氏
和歌山県周参見町産エビ網採集品	50点	山本 虎夫氏
インドネシア産淡水貝	5点	宇坪 直子氏
インドネシア産海産貝	50点	〃
対馬産カニ	2点	藤田 安見氏
兵庫県西宮市浜甲子園産海岸動物	14点	〃
ギリシャ産陸貝	5点	粉川 昭平氏
笠岡産カブトガニ	2点	浅野甘喜夫氏
京都市産陸貝	3点	小泉 清氏
枚方産サワガニ	1点	春沢圭太郎氏
山形県飛鳥産陸貝	7点	白畑孝太郎氏
大阪湾産海産動物(甲殻類など)	200点	大阪府水産試験場

与那国島産ミヤラヒメヘビほか両生爬虫類

	7点	湊 宏氏
奄美大島産シリケンイモリ	1点	福井 康雄氏
箕面産ヒキガエル	1点	西川 喜朗氏
京都府産カエル・イモリ	2点	〃
各地産両生爬虫類	11点	〃
奈良県稲村岳両生爬虫類	5点	〃
サバ・オーストラリア産両生類	6点	〃
佐賀県・三重県産両生爬虫類	4点	〃
各地産両生類	32点	富永 修氏
中国・四国産両生類	7点	〃
各地産両生爬虫類	17点	桂 孝次郎氏
対馬産両生爬虫類	10点	〃
滋賀県産タゴガエル	1点	〃
伊豆諸島産オカダトカゲ	6点	原 幸治氏
スリランカ産トカゲ	6点	原 幸治氏
京都大文字山産タゴガエル	7点	田中 聡氏
奈良県産等両生爬虫類	15点	春沢圭太郎氏
新潟県産カエル	4点	〃
各地産両生爬虫類	7点	〃
大阪府産両生爬虫類	3点	〃
福島県産ハコネサンショウウオ	20点	松井 正文氏
ナガレヒキガエル(タイプシリーズ)	22点	〃
ソビエト・アフガニスタン産カエル	7点	粉川 昭平氏
岐阜県産ジムグリ	1点	西川・春沢氏
大阪府・奈良県産両生類	5点	西川・富永氏

京都府産両生類	5点	桂・富永氏
各地産両生類	15点	富永・桂・土井 仲治郎氏
平戸産ジムグリ	1点	鴨川 誠氏
宮古島産ミヤコトカゲ	3点	当山 昌直氏
小笠原産両生爬虫類	6点	中川 眞次氏

(2) 主な収集標本

(49・50年度)

沖永良部島(奄美群島)産海岸動物。1974年6月～7月に渡島し、約200点を採集

隠岐産海岸動物。1975年9月に渡島し、約150点を採集

大阪湾産海岸動物。大阪湾の各地へ約50回採集に出かけ、およそ2,000点を収集

田辺湾産海岸動物。2年間で7回出かけ、約300点を採集

沖縄産無脊椎動物。1975年6月に渡島し、約80点を採集

沖縄本島・渡嘉敷島産両生爬虫類。1974年11～12月に177点を採集し登録した。

石垣島産両生爬虫類。1975年3月に49点を採集し登録した。

長崎県平戸島・的山大島・度島・生月島及び北松浦郡田平町の両生爬虫類。1975年6月に421点を採集し登録した。

石垣島・沖縄本島・西表島産両生爬虫類。1975年12月に180点を採集し登録した。

鹿児島県上甕島・下甕島の両生爬虫類。1976年5月に131点採集し登録した。

■ 昆虫研究室

(1) 寄贈標本(一部交換を含む、記録のため、昭和48年度も加えた。)

(48年度)

日本産昆虫(一部外国産)	1,953点	尾花 茂氏
韓国産昆虫	1,506点	
西川喜朗氏・桂孝次郎氏・富永修氏		
各地産トンボ	50点	桑原 英夫氏
対馬産昆虫	20点	富永 修氏
日本各地産昆虫	40点	春沢圭太郎氏
西表島産蝶	37点	吉年 祐一氏
ベニモンカラスジミ	3点	倉敷昆虫同好会
北海道産蝶(クモマベニヒカゲ他)	8点	小野 決氏
オガサワラシジミ	6点	伊賀 幹夫氏
北海道産セミ・直翅類	30点	棟方 明陽氏
北ボルネオ(サバ州)産昆虫	60点	春沢圭太郎氏
大台ヶ原産昆虫	76点	春沢圭太郎氏
近畿地方・石川県産昆虫	57点	春沢圭太郎氏
スウェーデン産蝶	5点	吉年 祐一氏

リュウキュウムラサキ	4点	白水 隆氏
北海道河東郡産昆虫	468点	外崎 誠氏
近畿地方産蛾	66点	松本 健嗣氏
近畿地方産蝶・蛾標本	32点	松本 健嗣氏
北海道糠平産蛾	8点	小野 決氏
中部地方産昆虫	754点	春沢圭太郎氏
北海道稚内産蛾	455点	坪田 隆司氏
大峯山昆虫	88点	春沢圭太郎氏
ヤエヤマハナダカトンボ	10点	岡島 秀治氏
山形県産昆虫	163点	白畑孝太郎氏
アサヒナキマダラセセリ	3点	浜 祥明氏
バナナセセリ(沖縄産)	5点	新城 安哲氏
小笠原産甲虫	2点	湊 宏氏
小笠原産蝶他	4点	小島 圭三氏
北海道産ジャノメチョウ	4点	久万田敏夫氏
北海道幌尻岳産蝶	5点	南 和秀氏
兵庫県産トンボ	300点	東 輝弥氏
(49年度)		
奄美群島産昆虫	10点	栄 政文氏
北海道河東郡上士幌産蛾	92点	外崎 誠氏
マレー産昆虫標本	39点	吉年 祐一氏
アブ・コケシロアリモドキ	28点	永富 昭氏
蒜山産蛾	41点	桂 孝次郎氏
インドネシア産トンボ	240点	久川 健氏
バナナセセリ	3点	一戸 文彦氏
沖縄産蝶	207点	浜 祥明氏
ソ連産蝶(交換)	195点	A.B.Tsvetajev氏
アフガニスタン産蝶	1,560点	有田豊氏・寺村重一氏
ニューギニア産昆虫	302点	大前信也氏・渡辺泉氏
日本産蝶(オガサワラセセリ他)	4点	藤岡 知夫氏
ニシキキンカメムシ	1点	宮本 正一氏
北アメリカ・メキシコ産蝶(交換)	9点	

J.P.Donahue氏

ヒメチャマダラセセリ	2点	渡辺 康之氏
ソ連産ウスバアゲハ4種	11点	野口 好司氏
フィリピン産蝶(北部ルソン)	40点	鈴木 治夫氏
キナバル山(ボルネオ)産蝶	33点	児玉 務氏
フィリピン産蝶	6点	岩崎 昭司氏
西部ネパール(カンジロバ・ヒマール)	205点	泉 隆次郎氏
フィリピン産蝶(ミンダナオ島)	123点	大和田 守氏
小笠原産トンボ	25点	
小島圭三氏・中村慎吾氏		
アンゴラ産蝶(交換)	93点	
J.P.Carvalho氏		
小笠原母島産トンボ	8点	小路 嘉明氏
日本産シジミチョウ・トンボ	7点	松尾 秀行氏
関西産トンボ	12点	畦 定子氏

東北地方産昆虫（蛾・キジラミ他）

	232点	白畑孝太郎氏
関西産昆虫（蝶・蛾他）	47点	松本 健嗣氏
ツシマウラボシシジミ	5点	法西 定雄氏
ニューギニア産甲虫	6点	嵩 洪氏
宮崎県産甲虫	2点	中西 明德氏
マレー産蝶（ゲンティン・ハイランド）		

	8点	吉年 祐一氏
枚岡公園産昆虫(1)	121点	春沢圭太郎氏
岐阜県高山市産昆虫	10点	尾花 茂氏
三重県尾鷲市産昆虫	20点	富永 修氏
比良山産昆虫	5点	上田 俊穂氏
中部山岳・北海道産昆虫	111点	春沢圭太郎氏
枚岡公園産昆虫(2)	295点	春沢圭太郎氏
北海道産トンボ	24点	北川 一馬氏
鳥取産トンボ	7点	衣笠 弘直氏
近畿地方産トンボ	21点	桑原 英夫氏
近畿各地産蝶	101点	桑原 英夫氏
紀伊半島南部産昆虫	60点	富永 修氏
中部地方産昆虫	35点	春沢圭太郎氏
ラオス・マレー産チョウ	608点	山崎 実氏
対馬産甲虫	370点	桂 孝次郎氏
京都芦生産蝶	9点	緒方 政次氏
奈良県吉野郡大淀町産昆虫	10点	富永 修氏
対馬・北九州産チョウ	34点	桑原 英夫氏
岐阜揖斐・本巣郡産昆虫	13点	西川 喜朗氏
滋賀県川上平産昆虫	7点	富永 修氏
岐阜県根尾村産昆虫	20点	富永 修氏
大台ヶ原・野迫川村産蝶及び蛾	28点	春沢圭太郎氏
三重県度会〜多気郡産昆虫	13点	桂 孝次郎氏
北九州産蛾（蝶を含む）	1,374点	中山 當己氏
外国産・日本産セミ	1,416点	有田 豊氏
台湾産キシタアゲハ雌雄型（50年度）	1点	中村 慎吾氏
外国産甲虫	26点	三宅 義一氏
モクセイアゲハ	1点	三宅 義一氏
マレーシア産同翅類	84点	三宅 義一氏
高知県天狗高原産蝶・蛾	41点	馬野 正雄氏
各地産長翅目標本	61点	富永 修氏
北海道産甲虫	9点	

北川一馬氏・一井弘行氏

大阪・京都産昆虫	27点	西川 喜朗氏
奈良県洞川〜稲村ヶ岳産昆虫	243点	春沢圭太郎氏
ヨーロッパ産蝶	129点	神吉 弘視氏
神戸市産蝶	25点	松本 健嗣氏
八重群島他各地産トンボ	102点	北脇 和光氏
北海道産トンボ	4点	田端 修氏
ミヤジマトンボ	6点	水田 国康氏

吉野山・岐阜県郡上産昆虫	80点	西川 喜朗氏
福岡市産カワトンボ	68点	宮本 正一氏
和歌山県御坊市阿尾湿原産トンボ		

	12点	尾花 茂氏
ソ連産蛾	30点	野口 好司氏
北九州産蛾（スズメガ科他）	373点	中山 當己氏
大阪府各地産昆虫	400点	春沢圭太郎氏
三重・奈良産昆虫	24点	富永 修氏
韓国産トンボ	62点	

尾花茂氏・若林守男氏

韓国・トカラ・屋久島産トンボ	128点	
		尾花茂氏・若林守男氏

ヨーロッパ産昆虫	粉川昭平氏・三木民子氏
----------	-------------

隠岐島産昆虫	38点	桂 孝次郎氏
淡路島産昆虫	12点	富永 修氏
札幌産昆虫	18点	北川 一馬氏
京都市上加茂産昆虫	3点	一井 弘行氏
長野県小諸市産ゲンゴロウ	2点	一井 弘行氏
北海道・栃木県産蝶	16点	法西 定雄氏
オガサワラゼミ	5点	長島 忠義氏
日本産・外国産蝶	1,883点	久留 文枝氏
奈良県吉野郡産ゴミムシ	29点	西川 喜朗氏
西表島産昆虫	2点	尾花 茂氏
枚方市淀川産昆虫	15点	西川 喜朗氏
青森県・香川県産蛾	1,239点	佐野 信雄氏
パラグアイ産蝶	128点	西阪 孚氏
日本産蛾他	1,189点	後藤 光男氏
台湾・沖縄産ベッコウチョウトンボ		

493点 小島圭三氏・中村慎吾氏

日本産・外国産トンボ	784点	岡島 秀治氏
山梨県桃の木温泉産蛾	318点	後藤 光男氏
日本産昆虫	42点	松本 健嗣氏

(2) 館員による採集と主な収集標本

日本産昆虫の平均的収集、大阪産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員（日浦・宮武）が行なった出張は次の通りである。便宜上、調査研究のための出張及び普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記述する。

（担当者名は、H：日浦，M：宮武と略する。）

（昭和49年）

4月3日	奈良県宇陀郡室生村向淵	展示標本（H・M）
4月10日	東大阪市枚岡公園	展示資料（M）
5月2日	枚岡公園	夜間採集（蛾他）（M）
5月12日	西宮市船坂谷	一般昆虫（M）
5月16日	枚岡公園	夜間採集（蛾他）（M）
5月20・28日	伊丹市伊丹	ヒメボタル調査（M）
5月29日	二上山	一般昆虫（H）
6月1・19日	枚岡公園	夜間採集（蛾他）（M）
6月7日	奈良県吉野郡上市町	一般昆虫（H）

6月14日 河内長野市三日市町 水生昆虫(H)
 6月19～24日 対馬(厳原・有明山・竜良山・豆酸・上見坂) 一般昆虫(H)
 7月8・9日 岸和田市阪南港貯木場 木材害虫調査(M)
 7月8日 枚岡公園 夜間採集(蛾他)(M)
 7月22日 枚岡公園 夜間採集(蛾・甲虫)(M)
 7月28日 二上山 一般昆虫(H)
 7月31日 河内長野市三日市町 水生昆虫(H)
 8月4日 滋賀県米原 昆虫相調査(H)
 8月11日 河内長野市三日市町 水生昆虫(H・M)
 8月17日 枚岡公園 夜間採集(蛾・セミ他)(M)
 9月3・7日 京都府相楽郡祝園 鳴く虫他(H・M)
 10月17・20日 豊中市服部 トンボ他(H・M)
 10月25日 能勢初谷溪谷 昆虫相調査(M)
 11月3日 枚岡公園 夜間採集(蛾他)(M)
 11月6日 奈良公園 コナジラミ・カイガラムシ(M)
 11月14日 箕面公園 夜間採集(蛾他)(M)
 11月15日 和泉市光明池 昆虫相調査(H・M)
 11月23日 愛知県北設楽郡設楽町段戸山裏谷 夜間採集(蛾他)(M)
 12月3・25日 枚岡公園 夜間採集(蛾他)(M)
 12月9・27日 箕面公園 夜間採集(フユシヤク他)(M)

(昭和50年)

1月11・28日 箕面公園 フユシヤク・甲虫等(M)
 1月15日 枚岡公園 夜間採集(フユシヤク他)(M)
 1月18日 枚岡公園 昆虫相調査(H)
 2月3日 枚岡公園 一般昆虫・夜間採集(フユシヤク他)(H)
 2月7日 千早赤阪村 昆虫相調査(H)
 2月16・24日 箕面公園 蛾調査(フユシヤク他)(M)
 3月1・4日 箕面公園 蛾調査(フユシヤク他)(M)
 3月1～6日 対馬(厳原・上見坂・佐須川) 昆虫相調査(H)
 3月4日 枚岡公園 夜間採集(蛾他)(M)
 3月8日 枚岡公園 夜間採集(灯火・糖蜜)(M)
 3月11日 箕面公園 蛾調査・夜間採集(M)
 3月13日 奈良県王寺 昆虫相調査(H)
 3月15・18日 二上山 昆虫相調査(H)
 3月22日 箕面公園 夜間採集(灯火・糖蜜)(M)
 3月22・26日 奈良県関屋 昆虫相調査(M)
 3月26日 枚岡公園 夜間採集(灯火・糖蜜)(M)
 3月29日 箕面公園 夜間採集(蛾他)(M)
 4月9日 枚岡公園 夜間採集(灯火・糖蜜)(M)
 4月18日 奈良県御所市葛城山 カンアオイ調査(H)
 4月19日 二上山 昆虫相調査(H)
 4月22日 奈良県香芝町関屋 昆虫相調査(H)

4月22日 大阪市東住吉区長原遺跡 昆虫化石(M)
 4月24日 箕面公園 夜間採集(蛾他)(M)
 4月25日 信貴山 一般昆虫(H)
 5月1日 箕面公園 蛾調査(M)
 5月8日 二上山 ギフチョウ調査(H)
 5月10日 大和葛城山 ギフチョウ調査(H)
 5月11日 和歌山市大川峠 一般昆虫(H・M)
 5月13日 二上山 昆虫相調査(M)
 5月13日 枚岡公園 夜間採集(蛾他)(M)
 5月20日 二上山北麓 昆虫相調査(H・M)
 5月23日 二上山 昆虫相調査(M)
 5月27日 二上山(一雄岳雄岳一当麻寺) 昆虫相調査(H・M)
 6月5・6日 福岡県彦山 夜間採集(蛾他)(M)
 6月8～13日 対馬(厳原・有明山・竜良山・上見坂・大船越) 昆虫相調査(M)
 6月8日 信貴山 一般昆虫(H)
 6月12日 能勢妙見山 一般昆虫(H)
 6月24日 奈良県香芝町関屋 蝶食性調査(H)
 6月26日 河内長野市三日市町 水生昆虫(H)
 6月30日 枚岡公園 夜間採集(蛾・甲虫)(M)
 7月11日 高槻市本山寺 一般昆虫(H)
 7月11日 二上山(頂上～鹿谷寺跡) 昆虫相調査(M)
 7月26・27日 高槻市(本山寺・ポンポン山) 一般昆虫(H)
 7月27日 能勢初谷～妙見山～新滝道 一般昆虫(M)
 8月7日 橋本市紀見峠 水生昆虫(H・M)
 8月25日 二上山(頂上～当麻寺) 昆虫相調査(M)
 8月28日 二上山 昆虫相調査(H)
 10月6日 二上山(頂上～当麻寺) 昆虫相調査(M)
 10月8日 二上山 昆虫相調査(H)
 10月11日 信太山 鳴く虫等(M)
 10月21日～26日 対馬(佐須奈・御岳・志多留) 昆虫相調査(H)
 11月3日 金剛山(クロトガ谷一頂上～御所) 一般昆虫(M)
 11月6・23日 二上山 一般昆虫(H)
 11月13日 名張市桔梗ヶ丘 クロスズメバチ巣(H)
 11月21日 京都(鞍馬山～貴船) 昆虫相調査(M)
 11月29日 愛知県北設楽郡段戸山裏谷 夜間採集(蛾他)(M)
 11月30日 愛知県東加茂郡旭町伊熊 昆虫相調査(M)
 12月11日 箕面(公園～勝尾寺) 昆虫相調査(M)
 12月11・21日 桜井市朝倉～初瀬 一般昆虫(H)
 12月13日 名張市赤目 昆虫相調査(M)
 (昭和51年)
 1月18日 春日山(大社～オンカサ山～月日亭)

昆虫相調査 (H・M)

1月22日 高槻市水無瀬 一般昆虫 (M)
2月6日 枚岡公園 夜間採集 (灯火・糖蜜) (M・馬野)
2月21日 春日山 (大杉—オンカサ峠—大杉)

昆虫相調査・夜間採集 (M)

2月23・24日 能勢青少年野外活動センター (剣尾山)
越冬昆虫 (M)

3月11日 二上山 昆虫相調査 (H)
3月16日 枚岡公園 夜間採集 (灯火・糖蜜) (M・馬野)
3月22日 和歌山県友ヶ島 昆虫相調査 (M)
3月23日 春日山 (月日亭—オンカサ峠—大杉)

昆虫相調査・夜間採集 (M)

■ 植物研究室

(1) 寄贈標本

(49年度)

日本産植物標本	約 100点	平野 実氏
近畿地方産植物標本	48点	桑島 正二氏
山本寛二郎氏旧蔵日本産蘇類標本	約 1,000点	田川 基二氏
鹿児島県産植物標本	約 100点	〃
宮崎県産植物標本	5点	滝 一郎氏
和歌山県産植物標本	2点	真砂 久哉氏
富山県産植物標本	62点	御影 雅幸氏
日本産植物標本	200点	黒崎 史平氏
北海道産植物標本	1点	牧 嘉裕・福井 敏勝氏
北海道産植物標本	約 100点	児玉 務氏
富山県産植物標本	50点	桑島 正二氏
京都府深泥池産コケ植物標本	10点	那須 孝悌氏
南九州産シダ植物標本	54点	生田 耕蔵氏
和歌山県産海藻標本	4点	山本 虎夫氏
日本産植物標本	110点	田川 基二氏
岡山県産帰化植物標本	1点	林 憲一氏
富山県産植物標本	118点	御影 雅幸氏
神奈川県逗子産など植物標本	6点	生田 耕蔵氏
近畿地方産シダ植物標本	10点	富士本久登氏
和歌山県産植物標本	8点	山元 晃氏
琉球産ソメモノイモ標本	1点	安永 明氏
琉球産サルトリイバラ根茎	1点	萬代 好氏
台湾玉山産コケ植物標本	約 80点	中村 真吾氏
大阪府河内高鷺産「一寸蚕豆」種子		高橋 博一氏
奈良県産ヤマナシ	1点	桐本 忠雄氏
近畿地方産植物標本	11点	白岩 卓巳氏
大阪府産植物標本	29点	中西 定雄氏
琉球産植物標本	76点	山中 雅也氏
和歌山県産シダ植物標本	10点	井上 康彦氏
兵庫県産カヤランなど	2点	西川 喜朗氏
日本産シダ植物標本	13点	富士本久登・谷関俊夫氏
和歌山県産シダ植物	7点	真砂 久哉氏

兵庫県産カラクサシダ標本	1点	小泉 茂樹氏
和歌山県産コバナノワレモコウ	1点	堀 勝氏
近畿地方産植物標本	20点	中島徳一郎氏
鳥取県智頭農林高校栽培メタセコイア雄花	1点	衣笠 弘直氏

大阪府箕面産マツバラシダ標本	1点	梅原 徹氏
近畿地方産植物標本	18点	桑島 正二氏
九州産などシダ植物標本	13点	村田 章氏
三重県産センダイソウなど植物標本	4点	牧 嘉裕氏

奄美大島産カンラン	1点	井上 康彦氏
キク属植物	4点	永井 かな氏
日本産植物標本	200点	田川 基二氏
三重県産苔類	3点	道盛 正樹氏
ツガサルノコシカケなど菌類標本	4点	岡部 宏秋氏
日本産植物標本	167点	黒崎 史平氏
和歌山県美里町産シダ植物標本		中嶋 章和氏
マレー半島産シダ植物	47点	吉年 祐一氏
台湾産シダ植物標本	101点	御影 雅幸氏
和歌山県産植物標本	3点	山元 晃氏
山梨県など日本産植物標本	46点	児玉 務氏
伊豆半島産シダ植物標本	5点	白岩 卓巳氏
和歌山県産シダ植物標本	3点	真砂 久哉氏
大阪府など日本産植物標本	3点	中島徳一郎氏
Pteridophyta Japonica Exsiccata Nos.1-50		中池 敏之氏

Papuapteris 標本	1点	中池 敏之氏
日本産植物標本	120点	村田 源氏
長野県産植物標本	6点	西川 喜朗氏
奈良県および大阪府産植物標本	131点	児玉 務氏
屋久島産ツチトリモチ	1点	児玉 務氏
堺市産エゾアブラガヤ	1点	吉本登喜治氏
京都市鞍馬山産植物標本	865点	永井 かな氏
近畿地方産植物標本	103点	永井 かな氏
近畿地方産蘇類標本	約1,000点	中島徳一郎氏
奄美大島産など植物標本	123点	中島徳一郎氏
沖縄産植物染料標本		安永 明氏
兵庫県産ヒメカンアオイ	2点	奥村 英世氏
屋久島産植物標本	136点	児玉 務氏
マレー半島産シダ植物	16点	吉年 祐一氏
アヤギスなど和歌山県産海藻標本	2点	山本 虎夫氏
アフリカ産地衣	1点	森 和男氏
西宮市大社中学校栽培メタセコイア雄花標本	1点	近藤 浩文氏

オーストラリア産植物標本		山元 晃氏
近畿地方産シダ植物標本	15点	富士本久登氏
(50年度)		
奈良県台高山脈産など植物標本	約 100点	

牧 嘉裕氏・福井敏勝氏

岡山県産植物標本 7点 生田 耕蔵氏

大阪府産な植物標本 約15点 中西 定雄氏

愛知県産ヒトツバタゴ標本 1点 井波 一雄氏

日本産種子植物標本 約100点 田川 基二氏

日本産植物標本 130点 黒崎 史平氏

富山県産植物標本 48点 御影 雅幸氏

和歌山県産シダ植物標本 7点 真砂 久哉氏

和歌山県産ノゲオオバコ標本 1点 豊原 稔氏

大阪府産植物標本 6点 竹村 周氏

尼崎市産ハナヤエムグラ標本 1点 西本 裕氏

日本産植物標本 約 200点 松本 邦夫氏

和歌山県産シダ植物 2点 富士本久登氏

大阪府産ノランニンジン標本 1点 齋藤 芳樹氏

和歌山県産植物標本 5点 山元 晃氏

岐阜県および京都府産植物標本 21点 桑島 正二氏

日本産植物標本 56点 児玉 務氏

日本産菌類・地衣類標本 8点 上田 俊穂氏

和歌山県産ゴウシュウアリタソウ 1点 山口 正三氏

大阪府産帰化植物標本 2点 西川 喜朗氏

大阪府泉南地方産植物標本 15点 中西 定雄氏

大阪府池田市産マツバラなど植物標本 2点 堀 勝氏

三重県産ツクバネガシ 1点 加納 康嗣氏

大阪府吹田市水田雑草 4点 片山 寛氏

岐阜県瑞浪市産植物標本 15点 平野 弘二氏

日本産植物標本 63点 村田 源氏

日本産シダ植物 76点 生田 耕蔵氏

長野県産ウロコノキシノブ標本 1点 谷村 忠訓氏

金剛山菌類標本 2点 内本 光次氏

奈良県大洞山産など植物標本 10点 桑島 正二氏

兵庫県淡路島産植物標本 6点 榎本 寛平氏

京都府京大芦生演習林産ツチアケビ 1点 大島 誠一氏

ソビエト産など外国植物標本 115点 粉川 昭平氏

沖縄産植物標本 12点 吉年 祐一氏

京都府八丁平産シダ植物標本 2点 宮本 水文氏

兵庫県大塩産尼崎市小田高校栽培ノジグク 5点 田中 貞之氏

奈良県産ミヤコアオイ 1点 西川 喜朗氏

岐阜県および近畿地方産シダ植物標本 70点

生田 耕蔵氏

ボルネオ産シダ植物 55点 児玉 務氏

和歌山県産エビガラシダ標本 1点 谷岡 俊男氏

近畿地方産シダ植物標本 38点 生田 耕蔵氏

日本産植物標本 200点 黒崎 史平氏

高知県産植物標本 6点 山幡 英示氏

九州産植物 7点 山本 虎夫氏

ネパールおよびシンガポール産シダ植物標本

20点 白岩 卓巳氏

32点 児玉 務氏

大阪府高槻市産マルバハギ材 1点 児玉 務氏

韓国産シダ植物標本 20点 御影 雅幸氏

フィリピン産タパ 1点 垣内 元紀氏

三重県名張市産ヒメカンアオイ 1点 加納 康嗣氏

(2) 館員による採集

収集・調査などのために行った出張は次の通りである。担当者名はS：瀬戸，N：那須，O：岡本と略する。

(49年度)

4月7日 淀川のヤナギ調査(八幡一枚方)(S・N)

4月11日 武庫川のヤナギ調査(宝塚市)(S・N)

5月29日 淀川のヤナギ調査(八幡一枚方)(S・N)

6月16日 大阪府岬町(S)

6月27日 武庫川のヤナギ調査(宝塚市)(S・N)

7月22～25日 和歌山県大塔山(O)

7月28日 兵庫県船越山(S)

9月4日 西宮市甲山附近(S)

9月6～7日 芦屋市いもり池調査(S・O)

9月12日 芦屋市いもり池調査(S・O・N)

9月26～27日 奈良県洞川一行者還岳(S・O)

(50年度)

5月17～18日 岐阜県瑞浪市(S)

5月23日 滋賀県伊吹山麓(S)

5月20日 奈良県二上山周辺(S・O)

5月27日 奈良県二上山周辺(S・O)

8月17～20日 長野県大町周辺(S・N)

10月6～9日 奈良県二上山周辺(S)

10月21～28日 宮崎県尾鈴山, 宮崎市(O)

11月17日 高知県土佐市(O)

12月14～16日 和歌山県大塔山(S・N)

3月20日 武庫川ヤナギ調査(西宮・尼崎市)(S)

3月23日 武庫川ヤナギ調査(西宮・尼崎市)(S)

Ⅲ 現有資料数

■ 地史研究室(登録済標本数)

	49年度末	50年度末	
岩 石	769	790	
鉱 物	1,408	1,411	
外国産化石	359	360	
古生代化石	112	117	
中生代化石	1,440	1,441	
第三紀化石	852	917	
有孔虫等微化石	13,700	13,700	
(計)	18,640	18,736	

(化石標本の登録様式の変更)

新館への移転, 第四紀研究室の新設を機に, それまで

Fの一連番号で登録してきた化石標本を、外国産化石（E）、古生代化石（P）、中生代化石（M）、第三紀化石（T）、第四紀化石（Q）の5系統に分けることになり、新しい標本番号をつけ加えた。そして第四紀化石については第四紀研究室の管轄とした。館報5号における現有資料数との数字的相異は上記理由によるものである。なお、岩石、鉱物、有孔虫等微化石については従来通りで、地史研究室管轄である。

■ 第四紀研究室（登録済標本数）

	49年度末	50年度末
第四紀化石	2,338	2,397

■ 動物研究室（登録済標本数）

	49年度末	50年度末
軟体動物(貝)	9,000	11,000
甲殻類	2,600	3,500
棘皮動物	570	620
原索動物	160	180
環形動物	200	230
扁形・紐形動物	50	70
触手動物	80	100
腔腸・有櫛動物	190	300
海綿動物	30	40
その他無脊椎動物	208	350
魚 類	2,300	2,300
両生類	4,097	5,072
爬虫類	1,198	1,315
鳥類・哺乳類	530	530
(計)	21,205	25,607

■ 昆虫研究室（昭和50年度末の標本数、未登録を含む）

標本総計 143,469点
（日本産 99,817、外国産 43,652）

内訳：

日本産昆虫

Odonata トンボ目	4,548
Blattaria ゴキブリ目	108
Mantodea カマキリ目	119
Isoptera シロアリ目	20
Plecoptera カワゲラ目	156
Orthoptera 直翅目	2,050
Grylloblattodera ガロアムシ目	9
Phasmida ナナフシ目	76
Dermaptera ハサミムシ目	204
Embioptera シロアリモドキ目	25
Psocoptera チャタテムシ目	99
Heteroptera 異翅亜目	15,678
Homoptera 同翅亜目	6,133
Neuroptera 脈翅目	280

Mecoptera シリアゲムシ目	1,164
Trichoptera トビケラ目	607
Heterocera 蛾	8,298
Rhopalocera 蝶	15,032
Diptera 双翅目	4,424
Coleoptera 甲虫目	27,953
Hymenoptera 膜翅目	4,088
その他(各目)	8,746
(計)	99,817

外国産昆虫

蝶	20,212
蛾	767
甲虫	1,234
同翅亜目	1,744
異翅亜目	166
直翅目	41
トンボ	518
その他	316
南太平洋学術調査隊収集標本	4,700
田中竜三氏コレクション（日本産を含む）	12,439
韓国産昆虫コレクション （西川・桂・富永氏採集）	1,506
(計)	43,652

■ 植物研究室（昭和50年度末の標本数）

種子・シダ植物腊葉標本	48,200
蕨類標本	32,400
苔類標本	23,000
地衣類標本	315
海藻標本	340
菌類標本	180
植物材標本	165
(計)	104,600

■ 現有資料総数

	49年度末	50年度末
地史資料	18,640	18,736
第四紀資料	2,338	2,397
動物資料	21,205	25,607
昆虫資料	—	143,469
植物資料	—	104,600
(計)		294,809

Ⅳ 自然史図書の収集

自然史に関する専門図書の収集は、当館の資料収集活動のなかに位置づけられている。図書類は、普及センター及び各研究室に配置される。購入及び文献交換で入手した雑誌類は主として書庫で、地形図・地質図は主として地史研究室で保管されている。これらはいずれも、当

館の展示・調査研究・資料収集保管の諸事業を行なううえでの主要な情報源となっており、普及センター配置の図書は、学芸員の指導のもとに入館者が直接に利用できる。しかしながら、これらを担当する専門職員（司書）は不在であり、市民への各種サービス（閲覧・リファレンス）は行ないがたい現状である。

■ 図書購入費による購入（寄贈・移管を含む）

年 度	購 入	寄 贈	移 管	計
49	420	33	—	453 冊
50	689	34	31	754 冊

移管は市立中央図書館より。寄贈は蔵書家・著者・支持者などによる。

図書購入予算については別項(31頁)をみられたい。

■ 消耗品費による購入

49・50年度には、次の科学雑誌を購入した。

国内：自然・科学朝日・科学の実験・遺伝・採集と飼育・科学・アニマ・週刊朝日百科 世界の植物。
国外：Copeia, Curator, Evolution, Journal of Paleontology, Pacific Science, Pacific Insects, Systematic Zoology (以上アメリカ) Geological Magazine (イギリス) Taxon (オランダ)

■ 学会への加入による会誌の収集

館が学会等へ団体会員として加入し、学界での最近情報を入手するとともに、会誌の収集を行っている。49・50年度加入は次の通り。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌及び Applied Entomology and Zoology）
日本動物学会（動物学雑誌）
日本生態学会（日本生態学会誌）
日本生物地理学会（日本生物地理学会会報）
日本衛生動物学会（衛生動物）
日本魚類学会（魚類学雑誌）
日本植物学会（植物学雑誌）
日本遺伝学会（遺伝学雑誌）
日本藻類学会（藻類）
日本陸水学会（陸水学雑誌）
日本地質学会（地質学雑誌）
日本第四紀学会（第四紀研究）
日本古生物学会（日本古生物学会報告・紀事）
日本地学研究会（地学研究）
日本博物館協会（博物館研究）
全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

以上のほか、動物分類学会・日本貝類学会などからは会誌の寄贈をうけている。

当館刊行物との交換による文献収集については、次項をみられたい。

V 文献交換状況

■ 交換・受贈による雑誌類の受入れ状況

（昭和51年3月31日現在）

博物館では研究報告はじめ、自然史研究、収蔵資料目録、Nature Study、館報などの交換として、国内外の文献収集につとめている。

年 度	受入れ冊数	冊数の累計
昭和49年度	3,281	32,663
昭和50年度	3,190	35,853

■ 研究報告の配布状況

ア、“大阪市立自然史博物館研究報告第28号”

(Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, No.28)

{	国内配布数	258カ所	260部
	国外配布数	73カ国	502カ所
		計	760カ所 766部

イ、“大阪市立自然史博物館研究報告第29号”

(Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, No.29)

{	国内配布数	266カ所	268部
	国外配布数	72カ国	498カ所
		計	764カ所 770部

■ “大阪市立自然史博物館館報特別号”の配布状況

{	国内配布先	253カ所	
	国外配布先	5カ国7カ所	計 260カ所

■ 収蔵資料目録と Nature Study の配布状況

ア、Nature Study の配布先（友の会会員配布以外）

{	国内	152カ所	
	国外	8カ国	15カ所
		計	167カ所

イ、収蔵資料目録の配布先

収蔵資料目録の配布は、国内については、研究報告および自然史研究の配布先にアンケートを送り、返送されてきた分について行なっている。これにアンケート調査以前より配布しているものをあわせると、配布先は35カ所である。国外へは、10カ国22カ所へ直送している。

VI 収蔵資料目録の発行

当館所蔵資料を公表する目的で、昭和43年度より年1回刊行している。この大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 (Special Publications from the Osaka Museum of Natural History) には、研究に基礎をおいた解説の付されているのが特色である。

■ 昭和43年度から48年度までの発行

（書名には自然科学博物館が用いられている）

第1集。日浦勇（1969.3）日本列島の蝶。第1部。

アゲハチョウ科、シロチョウ科、マダラチョウ科、ジャノメチョウ科、タテハチョウ科。1-120頁、

1-10図版。

第2集。日浦勇(1970.3) 日本列島の蝶。第2部。

テングチョウ科, シジミチョウ科, セセリチョウ科121-203頁, 11-20図版。

第3集。児玉 務*(1971.3) 近畿地方の苔類。第1部。概説, コマチゴケ目, ウロコゴケ目(1)。

1-116頁。

第4集。児玉 務*(1972.3) 近畿地方の苔類。第2部。ウロコゴケ目(2), フタマタゴケ目, ゼニゴケ目, 近畿地方での苔類の分布。117-248頁。

第5集。島倉巳三郎*(1973.3) 日本植物の花粉形態。1-60+1-13頁, 1-122図版。

第6集 関西トンボ談話会(1974.3) 近畿地方のトンボ。第1部。ムカシトンボ科, ムカシヤンマ科, サナエトンボ科。1-27頁。

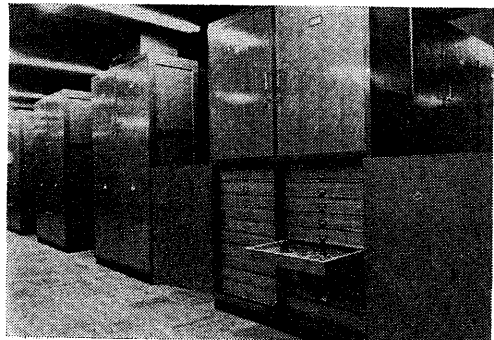
■ 昭和49・50年度の発行。〔№〕は当館業績番号

第7集。関西トンボ談話会(1975.2) 近畿地方のトンボ。第2部。オニヤンマ科, ヤンマ科, ヤマトンボ科, エゾトンボ科。29-53頁。〔№184〕

第8集。関西トンボ談話会(1976.3) 近畿地方のトンボ。第3部。トンボ科。55-82頁。〔№208〕

VII 当館植物標本庫 (Herbarium) の国際登録

当館 Herbarium の充実にともない, 収蔵標本が館外研究者の研究に利用されることが多くなってきた。特に近畿地方の植物誌的研究, あるいは分類地理学的研究には, 当館の Herbarium の標本は頻繁に利用されている。これら研究者の便宜を計るため, また国内はもとより, 国外の Herbarium 及びその研究者達と標本交換などで交流をし, 当館 Herbarium がより広く利用され, より一層充実したものとなるよう, 国立科学博物館の黒川道博士のすすめもあり, オランダのユトレヒトにある植物分類学の国際機関, International Bureau for Plant Taxonomy and Nomenclature of the International Association for Plant Taxonomy に登録を申請し, Index Herbariorum Ed.6. 1974より登録されている。略号は OSA である。



(第2収蔵庫)

普及教育事業

I 基本的な考え方

1974年4月に自然史博物館として新たに開館して以後、普及教育活動も新たな方向を模索しつつ行った。博物館は社会教育機関であると同時に研究機関であり、したがって博物館の行なう教育活動は、その両者の性格を、それぞれ比率を異にしながら、あわせ持つものとなる。

理科教育の目的は合理的、科学的な自然観、世界観を養なうことと、現代の社会で働き、くらしでゆくために必要な知識、さらに言えば、より内容豊かな生活を得るために必要な知識を与えることであるといわれている。学校教育の場合、この目的にそうように体系的なカリキュラムが組まれ、児童、生徒の発達状態に応じた教育がなされるが、自然史博物館の広義の自然教育の場合は、この理科教育の目的をふまえて、対象とする年齢にかかわらず、第1に、自然への接し方、観察のし方、学び方を教えるということにある。これが「自然と人間とのかかわり」を考える、という問題へと発展し、第2に、市民が観察し、疑問に感じた事を調べる援助をする。そしてそれを新たな研究へと進めてゆく、という二点になる。そしてこれを効果あるものとするために、現在まで蓄積されてきた知識、最近の研究の成果、そのプロセスをより重視して伝えることが必要である。さらに博物館という機関が、特別な場合をのぞいて同じ人に対して長期の教育活動をするのがむずかしく、また、幅の広い年齢層、多分野にちがったレベルで興味を持っている人達を相手とする必要があるため、それぞれの要求にある程度まで応えうる教育活動をすすめるなくてはならない。

またこれに加えて、現代の社会的要請の内容も変化しつつある。社会状況の変化により、社会教育の必要、生涯教育の必要がいわれ、これまでの自然破壊に対する反

省、あるいは自然へのあこがれから、自然を見なおそうという声が大きくなってきた。自然についての教育という事は、従来の学校教育ではまったく欠けており、この問題を考え、実践してきた自然史博物館は、これまで以上に自然教育についての積極的な実践例を示さなくてはならない。そしてこれらを通じて、自然史博物館の目的の一つである自然保護の思想を広めてゆくことができる。

49年度は移転直後であったため、十分な教育活動は行なえなかったが、50年度に、野外教育に二つのシリーズを発足させた。「昔の生活シリーズ」は、古代の日本人の生活の追体験をすることによって、自然物を深く理解することを目ざし、「地域自然史シリーズ」は、大阪府下の各地域の自然の中で、そこに住む人々が、どのように自然とむすびついた生活をしてきたのかを見よう、とするもので、両シリーズとも「自然と人間とのかかわり」を考えるものであった。他にテーマ別の野外行事、主として指導者層（学校の先生など）を対象とした実習などを行なった。

行事はそれぞれ参加者には好評であったが、参加人数はやや少なかった。最近では前述のような理由で、自然を訪ねる企画は種々の団体等で数多くなされており、博物館の行事にどっとおしよせるという事はないのかもしれない。また、ムードが先行し、テレビの記録映画のような擬似的な自然だけを求め、自分の体を動かして自然を訪ねようとする人は少なくなっているという事も言われている。しかし、博物館で把握していない多くの人達への働きかけが、最も大切であることは、いうまでもない。行事に参加する人達が、何度も参加する中で、自分の興味をのばし、自分の研究をすすめてゆく、というのが本来のあるべき姿であると思われる。

II 野 外 行 事

■ 昭和47年度

テ　　マ	回数	行　事　名	月　日	場　所	参加数
親と子の自然をみる会 (対象：子供は小学校 4～6年生)	1	レンゲ畑のかんさつ	4月23日(日)	桜井市新屋敷	303人
	2	谷川の生物しらべ	5月21日(日)	河内長野市三日市町	180
	3	川原の生物をみる会	6月11日(日)	京都府八幡町	335
	4	動物園でケモノをみる会	10月8日(日)	大阪市天王寺動物園	65
	5	赤トンボしらべ	10月15日(日)	和泉市信太山	108
	6	六甲山の地質見学会	11月5日(日)	六甲山麓住吉川周辺	93
	7	ザクロ石とサヌカイトさがし	12月3日(日)	二上山周辺	102
	8	動物の冬ごしかんさつ	12月10日(日)	奈良市山陵町	93

その他 自然観察会など	1	生駒宇宙科学館見学会	4月16日(日)	生駒宇宙科学館	21
	2	長居の自然をみる会	8月1日(火)	大阪市長居公園	52
	3	葛城高原の自然観察と採集会	8月11日(金) ～12日(土)	葛城高原	99
	4	虫の声をきく会	9月2日(土)	高槻市日吉台	50
	5	摂津峡をみる会	1月14日(日)	高槻市摂津峡	56

■ 昭和49年度

行 事 名	月 日	場 所	対 象	参加数
サマカイトをひろって、ウバユリを掘る会	7月28日(日)	大阪府南河内郡太子町、竹内峠	一般市民	51人
谷川のかんさつ	8月11日(日)	河内長野市大和川上流	〃	52
コケとシダ講習会	8月12日(日) ～8月14日(水)	京都市 高尾方面	高校生以上	30
鳴く虫を聞く会	9月7日(土)	京都府精華町 木津町川堤防	一般市民	35
バッタとコオロギの解ばう	9月22日(日)、 10月6日(日)	長居公園	〃	45
池のプランクトンの観察	9月29日(日)	〃	〃	28
赤トンボしらべ	10月20日(日)	吹田市 千里	〃	50
中央構造線の見学	1月19日(日)	和歌山県 橋本市	中学生以上	25
地層の見学と化石採集	3月9日(土)	泉佐野市 滝ノ池	〃	160

■ 昭和50年度

テ ー マ	行 事 名	月 日	場 所	対 象	参加数
地域自然史 シリーズ	大川峠	5月11日(日)	和歌山市加太～ 大川崎～岬町小島	小4年以上	37人
	信貴山	6月8日(日)	信貴山	〃	42
	妙見山	7月27日(日)	能勢妙見山	〃	32
実習講座	池のプランクトンの観察	4月13日(日)	長居植物園	小4年生以上	18
	川の調査法入門	8月7日(木)8日(金)	河内長野市三田市 紀見峠	高校生以上	29
	コケとシダの講習会	8月11日(月)12日(火)	京都市菩提滝	〃	50
	バッタ・キリギリスの観察	10月19日(日)	自然史博物館実習室	小4年生以上	30
昔の生活 シリーズ	ドングリひろい	10月26日(日)	奈良県平群町元山上口	〃	92
	石器づくり	11月23日(日)	二上山付近	〃	90
	ヤママユの糸をとる	12月21日(日)	奈良県桜井市朝倉	〃	15
	粘土から土器をつくる	1月25日(日)、2月1日 (日)、15日(日)22日(日)	奈良市赤膚山、自然 史博物館	一般市民	64
その他 自然観察会など	磯の観察	4月27日(日)	和歌山市田倉崎	小4年生以上	32
	深泥池	4月27日(日)	京都市 深泥池	〃	20
	大阪層群と弥生時代住居跡の 見学	11月9日(日)	高槻市日吉台	一般市民	73
	第1回天王寺動物園サマー スクール	8月1日(金) ～3日(日)	天王動物園、 自然史博物館	児童・生徒	30

Ⅲ 標本同定会

年度	月 日	参加者数	同定件数	部 門 別 件 数	参加者地域区分
47	8月27日(日)	744人	201件	(植物) 77 (昆虫) 28 (貝) 15 (化石・岩石・鉱物) 31 (その他) 50	大阪市内 89件 大阪府下 46件 他府県 14件 不 明 52件 (寝屋川7, 堺・豊中各6, 吹田・茨木 各3など19市町) (尼崎5, 京都3, 伊丹・奈良各2, 西宮 ・神戸各1)
49	8月31日(土)	187	106	(植物) 48 (昆虫) 26 (貝) 14 (化石, 岩石, 鉱物) 18	大阪市内 70 大阪府下 26 他府県 5 不 明 5 (東住吉21, 生野8, 住吉・淀川各6, 福島 5, 西成4など18区) (堺・高槻各4, 寝屋川・吹田各3, 枚方・ 高石・東大阪各2など13市) (西宮3, 奈良・神戸各1)

50	8月31日(日)	347	187	(植物)95 (その他)5 (昆虫) 33 (貝) 17 (化石,岩石,鉱物)37	大阪市内 122 (東住吉47, 阿倍野15, 住吉14, 淀川・西各 6, 福島・城東・平野各5, 住之江3など22区) 大阪府下 47 (堺7, 高石6, 枚方・寝屋川各5, 茨木・ 箕面各4, 豊中3など15市) 他府県 14 (西宮3, 奈良北葛城郡2, 宝塚, 尼崎, 神 戸, 京都, 長岡京, 奈良県下, 和歌山, 御 不 明 4 坊, 不明各1)
----	----------	-----	-----	--	---

Ⅳ 科学映画会

■ 昭和49年度

月 日	映 画 名	観覧者数
11月10日(日)	アフガニスタンの蝶と自然	250人
11月17日(日)	モンシロチョウ	430
12月22日(日)	動物の行動をさぐる	210
1月25日(土)	堆 積 岩	210
2月2日(日)	日本列島の生いたち	280
2月16日(日)	日本誕生, 花の日本列島	450
3月2日(日)	日本誕生, 空気呼吸と水呼吸	450
3月16日(日)	はくらの野尻湖発掘	350
3月29日(土)	美しい国土その生いたち・海	200
3月30日(日)	の生物誌, かけがえのない地球	400

■ 昭和50年度

月 日	映 画 名	観覧者数
4月6日(日)	尾瀬 北限の動物	500人
4月20日(日)	緑の都市計画, 日本の高山蝶	500
5月4日(日)	パンは生きている	500
5月18日(日)	日本の高山蝶	600
6月1日(日)	秋吉台の生物	500
6月15日(日)	美しい国土—そのおいたち	540
7月6日(日)	新昆虫記	350
7月20日(日)	氷河	350
8月3日(日)	海底の神秘	320
8月17日(日)	日本の屋根—長野県 of 自然	240
8月24日(日)	淡路島のチドリ	340
9月7日(日)	富士山	400
9月21日(日)	北海道の自然	450
10月5日(日)	野ウサギをかぞえる	250
10月19日(日)	流水	300
11月9日(日)	世界の樹林に挑む	200
11月23日(日)	明日への記録	380
12月7日(日)	小湊のオオハクチョウ	450
12月21日(日)	日本列島のおいたち	100
1月11日(日)	森林は生きている	180
2月1日(日)	ヒナにとって親とは何か	550
2月15日(日)	季節のない野菜	550
3月7日(日)	地球の科学	650
3月28日(日)	白い侵略者, 富士山, 動物の行動をさぐる	480

Ⅴ 講演会

月 日	演 題	場 所	対 象	参加数
49年10月27日(日)	公開シンポジウム 「淀川の自然を考える」 (調査研究事業の章, 自然史研究の項参照)	講堂	一般市民	140
49年11月10日(日)	アフガニスタンの蝶と 自然 (名城大学 有田 豊氏)	"	"	250
50年5月11日(日)	「野尻湖の発掘」成果 報告	"	"	109
6月22日(日)	野尻湖発掘のスライド とお話し	"	"	120
51年1月24日(土)	日本海(金沢大学 の謎 粕野義夫氏)	"	"	150

Ⅵ 植物園案内

昭和50年4月12日(土)以降, 毎月1回, 第1土曜日を中心に, 長居植物園入園者を対象に植物園案内を実施。昭和50年度は, 年間12回, 参加数は延 275 人であった。

Ⅶ 普及行事の詳細な記録

行事の内容, 結果や成果の記録は「大阪市立自然史博物館友の会」発行 Nature Study にくわしく記載しているのので, その巻号頁を付した。

昭和47年

- ・12月3日 ザクロ石とサスカイトさがし Vol. 19, 1—4
- ・12月10日 動物の冬ごしをみる Vol. 19, 4—11

昭和49年

- ・7月28日 サスカイトを拾ってウバユリを掘る会
Vol. 20, 9—12
- ・8月11日 谷川のかんさつ " , 10—4
- ・8月12日～8月14日 コケ・シダの講習会
" , 10—8
- ・9月7日 鳴く虫を聞く会 " , 11—6
- ・9月29日 池のプランクトンのかんさつ
" , 11—6
- ・9月22日, 10月6日 バッタ・コオロギのかいぼう
" 11—10
- ・10月20日 赤トンボしらべ " , 12—12

昭和50年

- ・1月19日 中央構造線の見学 Vol. 21, 3—4
- ・3月9日 地層の見学と化石採集 " 4—12
- ・5月11日 大川峠 Vol. 21, 6—8
- ・10月26日 ドングリひろい " , 12—6
- ・11月9日 大阪層群と弥生時代住居跡の見学
" , 12—6

昭和51年

- 11月23日 石器づくり Vol. 22, 1—11
- 12月21日 ヤママユの糸をとる " 2—7
- 1月25日～2月22日 粘土から土器をつくる " , 4—6
- 「長居植物園の1年」(植物園案内1年の記録) Vol. 22, 4—11

Ⅶ 大阪市立自然史博物館友の会

当館普及活動の一環として友の会の育成・指導を行っている。

■ 沿革

- 昭和30年4月1日 「自然科学博物館後援会」設立
- 昭和33年1月1日 名称を「大阪自然科学研究会」に改称
- 昭和49年11月1日 名称を「大阪市立自然史博物館友の会」に改称

■ 会員

- 昭和47年12月31日 1,173名
- 昭和48年12月31日 1,008名
- 昭和49年12月31日 1,368名
- 昭和50年12月31日 1,142名

■ 観覧会

年 月 日	テ ー マ	場 所	参加者数
47年 4月16日	隕石・隕鉄展見学会	生駒山宇宙科学館	21人
8月1日	長居公園の自然をみる会	長居公園	49
8月11日～12日	葛城山自然観覧会	葛城山	99
9月2日	虫の声を聞く会	高槻市 日吉台	50
48年 1月14日	摂津峡の自然かんさつ	" 摂津峡	56
4月29日	私市大阪市大付属植物園かんさつ会	交野市 私市	46
9月8日	なく虫のかんさつ会	奈良公園	40
10月14日	クモ・昆虫のかんさつ	岩湧山麓	28
50年 6月29日	クモ・昆虫のかんさつ	箕面公園	不明
9月6日	鳴く虫を聞く会	京都府精華町木津川堤	41
51年 3月20日	磯の動物	和歌山市 田倉崎	53

■ Nature Study (月刊・同会発行普及誌) の発行事業

昭和47年4月～昭和51年3月31日
Vol. 18—4月号～Vol. 22—3月号 (各12ページ47冊)

■ 書籍類販売事業

普及センターにおいて、館出版物(展示解説書収蔵資料目録、特展解説書)を中心として自然科学に関する書籍類を販売(カッコ内は発行者)

- 恐竜の世界(1975 大阪市立自然史博物館友の会)
- グラフ大阪(1974 大阪市市長室広報課)
- 自然史博物館の収集活動(1973 日本博物館協会)
- 野尻湖の発掘1962—1973(1975 野尻湖発掘調査団)
- 神戸の化石と化石産地(1975 兵庫県自然保護協会)
- 象のいた湖(1974 野尻湖発掘調査団)
- 絵ハガキ(チョウ・ガ・セミなど) 21種



普及行事「昔の生活シリーズ」 「粘土から土器をつくる」 (奈良市赤膚山)

庶務

I 沿革

昭和24年11月8日—自然科学博物館開設準備委員会設置

昭和25年4月1日—自然科学博物館費予算に計上

昭和25年11月10日—市立美術館2階廊下において展示開設

昭和27年4月17日—博物館相当施設に指定

昭和27年6月2日—大阪市立自然科学博物館条例および規則制定

昭和27年7月10日—博物館法第10条により登録（第2号）

昭和27年10月1日—筒井嘉隆、館長に就任（39.7.4退任）

昭和32年6月7日—市立美術館より西区靱2丁目（戦災元靱小学校校舎改造）に移転

昭和33年1月13日—開館

昭和34年—新館建設について本市社会教育審議会の意見具申（教育委員および市長）

昭和39年3月31日—市条例および規則改正

昭和39年7月4日—千地万造 館長に就任

昭和39年—「日本育英会貸与金の返還を免除する職をおく研究所」に指定される

昭和42年—大阪府総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により、長居公園内に新館敷地が確定

昭和44年8月—新館建設のための基本構想審議委員会組織

昭和45年4月—自然史博物館建設委員会組織

昭和47年1月21日—自然史博物館建設工事着工

昭和48年3月31日—自然史博物館建設工事竣工

昭和48年4月1日—旧館閉館

昭和48年7月—新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）

昭和49年4月1日—大阪市立自然史博物館条例公布（施行、49.4.2）

昭和49年4月26日—自然史博物館開館式挙行

昭和49年4月27日—開館

上海市友好代表团来訪

昭和49年5月31日—レーニングラード市副市長・市議会議員来訪

■ 表彰・感謝状

- ・大阪府建築コンクール入賞（昭和49年度知事賞）
- ・ディスプレイデザイン1974年賞入選（昭和50年7月15日 日本ディスプレイデザイン協会審査により、第2展示室が入選）
- ・感謝状受領（昭和50年4月21日、大阪府知事より当館の新館の建築にあたり、建築技術の進歩向上に寄与したとして、大阪市あて感謝状が送られた。）
- ・（社）日本博物館協会の功労者表彰（昭和50年10月27日、社団法人日本博物館協会より千地万造・日浦勇・柴田保彦・瀬戸剛の4名及び前館長筒井嘉隆氏が表彰された。）
- ・大阪市第20回業務改善提案「佳良」表彰（昭和51年2月25日、大阪市長より業務改善提案「自然史博物館入館者への普及活動について」—学芸課—が表彰される）

II 組織

■ 職員の配置

館長(1)-副館長(1)-庶務課長(1)-主査(1)-学芸課長(1)-学芸員(9)

事務職員(7)
技術職員(8)
現業職員(8)

主任学芸員(1)
学芸員(9)

■ 職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	千地 万造	学芸課長	日浦 勇
副館長兼庶務課長	坂間 忠雄	主任学芸員	柴田 保彦
“ 主査	出水 又義	学芸員(動物)	布村 昇
事務職員	加納 康嗣	“ (昆虫)	宮武 頼夫
“	鈴木三千代	“ (植物)	瀬戸 剛
“	中駄 一男	“ (“)	岡本 素治
“	白井 俊	“ (“)	布谷 知夫
技術職員	西村 元	“ (地史)	両角 芳郎
守 衛	小川 泰利	“ (“)	石井 久夫
“	菊池 勝	“ (第四紀)	那須 孝悌
用 務 員	内本 光次	“ (“)	樽野 博幸
“	大谷 春雄		
汽かん員	加藤 正次		
電気作業員	平岡徳治郎		
業 務 員	池田 昭利		
“	馬野 正雄		
“	吉田 茂		
“	下原千鶴子		

■ 人事（昭和47年1月1日～昭和51年3月31日）

- ・昭和47年2月9日 千地万造 文部省社会教育審

議会委員就任（現在に至る）

- ・昭和47年5月2日 山平恵造 教務部教職員課より当館庶務係へ
- ・昭和48年3月1日 那須孝悌 採用(当館学芸係)
- ・昭和48年4月1日 布村昇 岡本素治 採用(当館学芸係)
- ・昭和48年4月28日 外嶋実 教務部教職員課へ転出
- ・昭和48年4月28日 白井俊 教務部給与課より当館庶務係へ
- ・昭和48年5月14日～5月31日 千地万造 アメリカ合衆国へ出張(アメリカ自然史博, ワシントン国立博ほか)
- ・昭和48年11月1日 樽野博幸 採用(当館学芸係)
- ・昭和49年4月1日 石井久夫 採用(当館学芸係)
- ・昭和49年4月2日 千地万造 自然史博物館長に就任
- ・昭和49年4月13日 小笠原哲夫 総務部主幹へ転出
- ・昭和49年4月13日 河野広次 職員局厚生課長より自然史博物館副館長兼庶務課長に就任
- ・昭和49年4月13日 日浦勇 学芸課長就任
- ・昭和49年4月26日 山平恵造 城東区へ転出(総務課社会教育係長)
- ・昭和49年4月27日 中駄一男(東区), 西村元(中央体育館) 当館庶務課へ
- ・昭和49年5月9日 平岡徳治郎(中央体育館), 加藤正次(中央公会堂) 当館庶務課へ
馬野正雄, 吉田茂, 臨時採用(当館庶務課, 本務 49年7月1日)
- ・昭和49年6月1日 小川泰利, 菊池勝(市長室) 当館庶務課へ
藤田千鶴子 臨時採用(当館庶務課, 本務 49年7月1日)
- ・昭和49年7月1日 加藤正次 自然史博物館班現業主任就任
- ・昭和49年11月1日 布谷知夫 採用(当館学芸課)
- ・昭和50年6月26日 倉橋英和 総務部庶務課へ転出, 加納康嗣(教務部学校保健課), 鈴木三千代(天王寺区) 当館庶務課へ

■ 歳入月別内訳

年度 月別	49年度			50年度		
	入館料等	雑収	計	入館料等	雑収	計
4月	円	円	円	円	円	円
	—	—	—	950,595	4,000	954,595

■ 学芸員資格の取得日

氏名	年月日	氏名	年月日
岡本素治	昭和50年2月24日	千地万造	昭和33年2月17日
布谷知夫	昭和50年11月1日	日浦勇	昭和34年1月5日
両角芳郎	昭和46年3月25日	柴田保彦	昭和34年1月5日
石井久夫	昭和50年4月1日	布村昇	昭和49年4月1日
那須孝悌	昭和49年3月1日	宮武頼夫	昭和43年3月7日
樽野博幸	昭和49年11月1日	瀬戸剛	昭和39年4月1日

Ⅲ 予算・決算

■ 昭和49年・50年度（人件費をのぞく）

(単位千円)

歳入 歳出 区分	部 区 分	事 項	49年度		50年度	
			予算	決算	予算	決算
歳入		入館料ほか	21,344	16,626	23,051	10,110
		雑収(パンフレット等売上代)	870	529	1,437	1,181
		合計	22,214	17,155	24,488	11,291
歳出	第1部	展覧事業費	2,350	2,100	2,448	5,043
		月の石展覧事業費	1,888	1,367	810	674
		特別展覧事業費	1,261	996	2,019	2,255
		調査研究事業費	1,297	1,386	1,686	2,403
		資料収集保管事業費	1,545	1,595	1,766	1,602
		普及指導事業費	300	475	265	264
		整備充実費	487	480	492	639
		一般維持管理費	48,999	39,676	39,172	34,869
		式典費	298	310	0	0
		合 計	58,425	48,385	48,658	47,749
	第2部	館藏品整備事業	9,100	9,100	7,000	7,000
		市民図書整備事業	1,004	1,004	2,000	2,000
		合 計	10,104	10,104	9,000	9,000
	第1部・2部合計		68,529	58,489	57,658	56,749

■ 歳出予算年度別推移

(単位千円)

年度	44	45	46	47	48	49	50
第1部	4,347	5,656	5,567	6,337	20,653	58,425	48,658
第2部	1,730	2,000	103,000	815,310	151,000	10,104	9,000
合計	6,077	7,656	108,567	821,647	171,653	68,529	57,658

※46～48年度第2部予算には、自然史博物館建設事業費を含む

5月	6,177,525	276,250	6,453,775	1,268,950	10,000	1,278,950
6月	1,978,195	500	1,978,695	710,925	1,500	712,425
7月	871,620	—	871,620	529,605	250	529,855
8月	1,413,235	—	1,413,235	1,071,800	11,500	1,083,300
9月	948,155	—	948,155	644,460	183,902	828,362
10月	1,456,795	102,500	1,559,295	1,229,515	217,750	1,447,265
11月	1,492,715	114,500	1,607,215	1,588,290	317,800	1,906,090
12月	317,895	2,750	320,645	191,030	89,150	280,180
1月	317,575	18,150	335,725	271,125	172,500	443,625
2月	435,665	4,000	439,665	566,570	59,250	625,820
3月	1,216,860	10,300	1,227,160	1,086,805	113,400	1,200,205
計	16,626,235	528,950	17,155,185	10,109,670	1,181,002	11,290,672

Ⅳ 施 設

- 所在地 大阪市東住吉区東長居町(長居公園内)
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造 地
下1階、地上3階

■ 主要各室面積

(展示用施設)

オリエンテーションホール	550.35㎡
第1展示室	360.55㎡
第2展示室	486.64㎡
第3展示室	403.10㎡
特別展示室	360.55㎡
2階ギャラリー	266.29㎡

(研究用施設)

館長研究室	18.27㎡
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡
第四紀・外来研究室	各 36.54㎡
生物実験室	49.20㎡
化学分析室、暗室	各 18.27㎡
電子顕微鏡室	37.43㎡
動物標本製作室	37.71㎡
昆虫、植物標本製作室	各 36.54㎡
化石処理室	47.56㎡
くんじょう室	18.27㎡
石工室	22.21㎡
第1収蔵庫	207.09㎡
第2収蔵庫	310.08㎡

第3収蔵庫	207.09㎡
第4収蔵庫	310.08㎡
書庫	100.30㎡
編集記録室	36.54㎡

(普及教育用施設)

講堂(映写室、控室含む)	319.09㎡
普及センター	93.30㎡
集会室	95.12㎡
実習室	96.76㎡

(管理用施設)

館長室	36.54㎡
事務室	83.34㎡
応接室	29.54㎡
宿直室	16.85㎡
守衛室	17.64㎡
会議室	47.56㎡
機械室	472.35㎡
電気室	89.92㎡
自家発電機室	49.16㎡
中央監視盤室	28.05㎡

■ 階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費 10億1,000万円

(建設工事費) 7億9,500万円

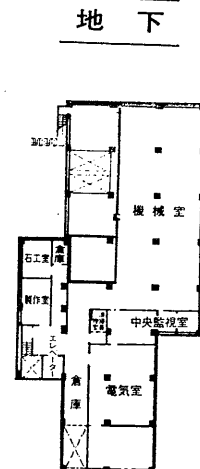
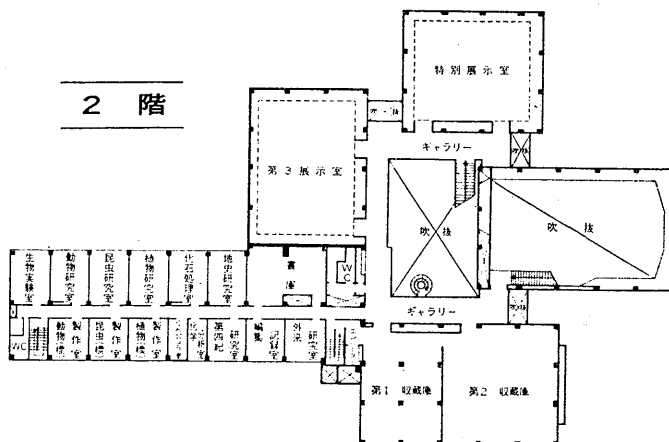
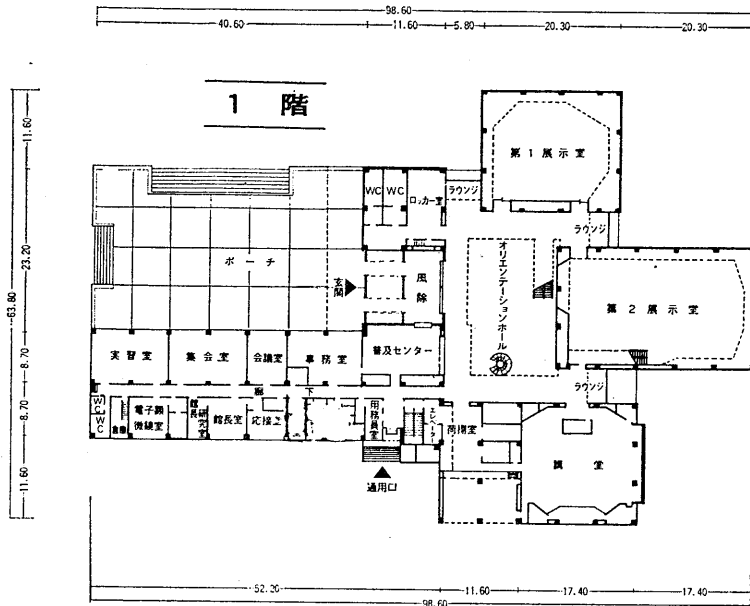
・本体工事(榊竹中工務店)	491,735千円
---------------	-----------

- ・付帯工事 302,818千円
- (設計監督委託料) 2,700万円
- (内部設備費) 1億5,000万円
- ・内部備品 76,000千円
- ・第1展示室ディスプレイ (㈱日展) 21,999千円
- ・第2展示室ディスプレイ (㈱乃村工芸社) 24,978千円
- ・第3展示室ディスプレイ (㈱丹青社) 21,090千円

- ・オリエンテーションホールディスプレイ (㈱電電広告) 6,090千円
- (その他) 3,800万円
- 事務費, 移転費 (5,500千円) 公園樹木移設工事費 (4,200千円)

■ 国庫補助金・起債

- ・国庫補助金 3,000万円 (47.10.13付交付決定)
- ・起債 3億8,762万円 (47.8.25付交付決定)



V 学芸員講師派遣状況 (昭和49年度)

月日	氏名	講師派遣内容	場所	依頼者
7/10	瀬戸 剛	理科研修会	大阪市	大阪市立磯路小学校
7/21~22	日浦 勇	昆虫についての講演と自然史部門の展示指導	徳島県	徳島県立博物館

8/26～27	樽野博幸	昭和49年度理科教育現代化講座 高等学校部会	京都市平安女学院 高等学校	京都府教育委員会
8/27	布村 昇	夏休み自然科学講座 「海の生物とその生活」	高槻市	高槻市立中央公民館
11/7	瀬戸 剛	幼稚園研究会研修	吹田市北千里公園	吹田市幼稚園教育研究会
2/17	瀬戸 剛	中学校理科教育研修会	堺市立科学教育研究所	堺市中学校教育研究会
3/11～12	日浦 勇	NHK 教師の時間 —クラブ活動のために—	東京都	日本放送協会 放送総局

(昭和50年度)

月日	氏 名	講 師 派 遣 内 容	場 所	依 頼 者
5/16	宮武頼夫	特別展指導	岐阜県瑞浪市	瑞浪化石博物館
7/3	瀬戸 剛	観察会	交野市・市大植物園	大阪府科学教育センター
7/9	日浦 勇	理科部教員研修会	寝屋川市・淀川河川敷	門真市教育委員会
7/26～27	日浦 勇	観察会	高槻市	高槻市公害問題研究会
8/3～5	千地万造	小中学校教員・紀伊半島地質観察	和歌山県尾鷲市外	阪南理科教育研究会
8/4	日浦 勇	中学校理科教育現代化講座	枚方市立科学教育センター	枚方市教育委員会
9/18～19	宮武頼夫	野菜病虫害防除に関するシンポジウム	広島県	日本植物防疫協会
10/21	瀬戸 剛	秋の植物の観察と実習	寝屋川市	寝屋川市教育委員会
11/11	千地万造	中央公民館 11月定例講座	高槻市	高槻市立中央公民館
11/18	宮武頼夫	オンシツコナジラミの分類と生態	東京都・農業技術研究所	農林省農蚕園芸局
11/20	千地万造	中学校・理科・社会科担当教諭研究会	大阪市	大阪市教育研究会 8 B 部
11/26	瀬戸 剛	高等学校生物研修会	交野市・市大植物園	大阪府科学教育センター
11/29	日浦 勇	NHK教育テレビ「おかあさんの勉強室—自然観察」	大阪市	NHK近畿本部
12/9	那須孝悌	地層見学	吹田市・千里丘陵	吹田市中学校教育研究会
1/19	那須孝悌	NHK教育テレビ「みんなの科学 自然をさぐる—化石になった花粉」	名古屋市	NHK中部本部
2/6～10	那須孝悌	シンポジウム「沖縄本島の第四紀花粉化石」	那覇市首里	琉球大学
2/24～25	宮武頼夫 岡本素治 布谷知夫	職員研修	大阪府能勢郡能勢町	大阪府総合青少年野外活動センター
2/29	日浦 勇	冬ごしの生物	高槻市	高槻公害問題研究会
3/17	瀬戸 剛	文部省委嘱昭和50年度博物館振興方策研究事業第2回研究委員会	伊丹市	伊丹市教育委員会
3/26～27	日浦 勇	第8回自然史博物館学芸職員研究集会	東京都高尾自然科学博物館	日本博物館協会

Ⅵ 施設の利用状況（自然史に関する利用）

■ 昭和49年度

(集会室) ……30件

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
7/10	寝屋川市小学校理科教育研究会	30	12/1	関西トンボ談話会	40
7/23	科学教育研究協議会大阪支部	60	12/15	日本甲虫学会	30
7/28	枚方市文化財学級(6年生クラス)	20	12/21	自然保護協会関西支部 自然保護教育研究会	20
8/13	石友会	20	12/22	日本昆虫学会若手分類研究会	20
9/14	地学団体研究会大阪支部例会	30	1/12	日本シダの会 関西談話会	50
9/15	岡山県高校理科協議会生物部会	20	1/18	自然保護教育研究会	20
9/18	高石市理科教育研究会	30	1/26	日本野鳥の会大阪支部総会	50
9/21	生きものの趣味の会	30	1/26	植物分類地理学会	60
10/9	日本自然保護協会関西支部講演会	40	2/2	関西トンボ談話会	50
11/2	日本自然保護協会関西支部	10	2/12	高槻市小学校理科教育研究会	30
11/3	近畿植物同好会	60	2/15	自然保護教育研究会	20
11/7	西天満家庭教育学級	60	2/23	近畿植物同好会	60
11/10	日本鱗翅学会近畿支部	60	3/2	泉州の自然と文化財を守る連絡会	60
11/17	日本昆虫学会近畿支部	50	3/15	自然保護教育研究会	20
11/24	京都理科サークル	10	3/30	関西トンボ談話会	50

(会議室) …… 6件

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
6/14~16	日本古生物学会評議員会	10	11/27	大阪市立中学校教育研究会理科部 第6ブロック	20
10/6	大阪昆虫同好会	20	2/2	地学団体研究会	20
11/17	石友会	20	3/23	大阪昆虫同好会	20

(実習室) …… 1件

10/30 松原市教育研究会理科部会 45人

(講 堂) …… 14件

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
5/24	大阪府私学理科教育研究会	100	10/12	日本自然保護協会 自然保護教育研究会	50
6/15~16	日本古生物学会例会	50	11/10	日本鱗翅学会 講演会	200
6/28	白梅会(見学と一般周知)	102	11/14	東住吉,平野婦人会,一日里親見学会	69
7/12	東住吉婦人団体協議会(自然科学) 講演会	101	11/7	市施設見学	77
7/20	大阪市立自然史博物館友の会総会	100	11/30	守口高校 校外学習	360
8/29	東住吉区末亡人会連合会 (母子家庭レクレーション)	62	1/26	植物分類地理学会総会	150
			3/8	日本自然保護協会 自然保護教育研 究会講演会	150
			3/16	野尻湖発掘調査団学習会	150

(特別展示室) …… 1件

11/24~30 近畿大学薬草研究会の展示会

■ 昭和50年度

(集会室) …… 35件

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
4/3	国学院大学博物館学講座	30	6/8	石友会	20
4/13	兵庫県自然教室“しろばんば”	30	6/13	寝屋川市中学校理科研究会	25
4/19	自然保護教育研究会	20	6/15	大阪自然教室	70
5/18	地学団体研究会大阪支部	30	6/20	大阪府高等学校生物教育研究会	50
6/1	自然保護教育研究会	30	6/27	淀川区中学校理科研究部	20

6/29	自然保護教育研究会	30	11/16	石友会	20
7/20	自然保護教育研究会	30	11/20	大阪市中学校教育研究会第8 ブロック	60
8/3	日本野鳥の会大阪支部	30	11/30	関西トンボ談話会	40
9/7	日本シダの会関西談話会	50	12/6	日本昆虫学会近畿支部	50
9/17	大阪私立保育園連盟保育内容委員会	50	12/7	大阪昆虫同好会	30
10/18	婦人会館現代教養講座同窓会	23	12/14	日本甲虫学会	40
10/19	東亜蜘蛛学会関西支部	25	1/18	日本自然保護協会 「自然保護センター」	150
10/26	府高教実習助手部理科交流会	20	1/23～25	日本第四紀学会	200
10/31	日本シダ学会・日本蘇苔類学会	50	2/8	関西トンボ談話会	50
11/6	大阪府科学教育センター研修会	50	2/15	近畿植物同好会	60
11/8	大阪外国語大学生物学教室	30	3/14	関西トンボ談話会	50
11/9	枚方市文化財学級	30	3/18	平野区コミュニティ・スクール	60
11/15	九州大学農学部同窓会見学会	30			

(会議室) ……29件,

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
4/6	石友会	30	12/7	大阪昆虫同好会	20
6/8	大阪地学教師グループの会	10	1/6	日本自然保護協会関西支部参事会	10
6/15	関西大学博物館学講座	30	1/10	シダ植物研究集会	20
6/15	大阪昆虫同好会	20	1/23～25	日本第四紀学会	200
7/26	日本自然保護協会関西支部	20	1/31	自然保護教育研究会	15
8/3	自然保護教育研究会	20	2/13	伊丹市立博物館委員会	15
9/18	日本自然保護協会関西支部 ため池研究グループ	20	2/15	石友会	15
9/24	「大阪の地学」編集委員会	10	2/22	大阪昆虫同好会	25
9/28	大阪自然教室	20	2/28	自然保護教育研究会	10
10/11	近畿地区教大協理科部会研究会	20	3/14	大阪昆虫同好会	20
10/17	守口市中学校理科教育研究会	20	3/14	箕面市文化財愛好会	15
10/18	自然保護教育研究会	15	3/26	自然保護教育研究会	10
10/26	大阪昆虫同好会	20	3/28	大阪昆虫同好会	25
11/4	阿倍野区理科主任会	12			
11/29	自然保護教育研究会	15			

(実習室) ……10件,

月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
4/27	石友会	15	1/23～25	日本第四紀学会	200
6/29	大阪市立自然史博物館友の会「くも観察 会」	20	2/1	阪神・わかやま野尻湖友の会「骨の勉強 会」	20
9/10	中学校理科教育現代化講座	50	3/7	阪神・わかやま野尻湖友の会「火山灰の 中の鉱物をみる」	20
9/13～14	阪神・わかやま野尻湖友の会技術講習会	20	3/13～14	“ 花粉グループ	20
10/31	タンポポ研究会	20			
1/18	日本シダの会関西談話会	40			

(講堂) ……5件

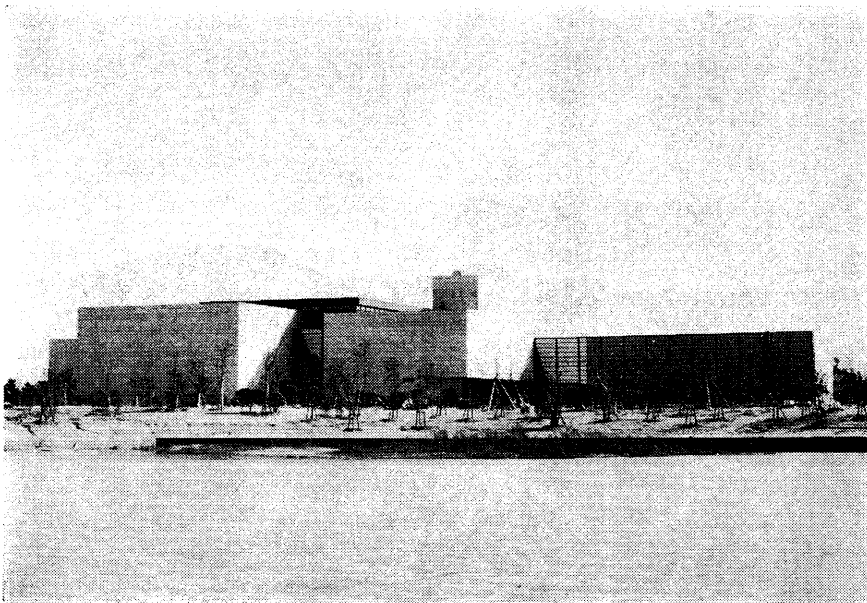
月日	団 体 名	人 数	月日	団 体 名	人 数
9/28	大阪自然教室	150	1/23～25	日本第四紀学会	200
1/18	日本自然保護協会 自然保護指導員セミナー	150	3/21	関西文化財保有協議会	250
3/28	大阪市立自然史博物館友の会総会	100			

なお全国各地の博物館関係者・博物館建設準備担当者
・社会教育担当者・教育委員会関係者が、本館を先進博
物館のモデルとして見学に来るケースがきわめて多い、
これらに対して、展示室のみならず、各種内部施設を案

内、運営状況・活動方針等を説明して日本の博物館事業
・社会教育事業の前進に資しているが、その詳細は省略
する。

Ⅶ 当館に関する紹介資料（外部資料）

- ・ 深瀬説〔タンジエント〕（1973）博物館＜10＞ファーストインスピレーション 大阪市立自然科学博物館。科学の実験（共立出版）24巻5号：439—443
- ・ 無 名（1974）博物館めぐり 大阪市立自然史博物館。国土と教育（築地書館），5巻1号（25号）：8—9
- ・ ———（1974）大阪市立自然史博物館長居公園に開館。博物館研究，9巻5号：31
- ・ ———（1974）＜館園あれこれ＞大阪市立自然史博物館，博物館研究，9巻6号：13〔組織が2課になったこと〕
- ・ ———（1974）グラフおおさか23号（1974年11月大阪市長室広報課発行）特集1，長居公園と自然史博物館。表1—2：1—14
- ・ 千地万造（1974）主張，討論会「古生物と博物館」から，博物館研究，9巻7号：1
- ・ 日浦 勇（1974）大阪市立自然史博物館と昆虫部門の展示。昆虫と自然（ニューサイエンス社）9巻8号：2，12—13
- ・ 藤岡 薫（1974）自然から学ぶ市民の教育，大阪市立自然史博物館。季刊科学の眼，自然科学と博物館（国立科学博物館後援会）41巻4号（特集自然史博物館への招待）・159—162（及び巻頭グラビアにも関連写真あり）
- ・ 千地万造（1975）大阪市立自然史博物館（Osaka Museum of Natural History）。地質ニュース（地質調査所編）。246号：30—35
- ・ 無 名（1975）ナチュラル・ヒストリイの収蔵をめざす大阪市立自然史博物館，湯川二郎（企画）全日本社会教育連合会（編）＞事例研究＜社会教育に関する施設—設置と運営一。〔単行本，315頁〕。125—128。〔市町村（日常生活圏）の社会教育に関する施設としての紹介，258頁に当館予算等の表あり，118頁に当館オリエンテーションホール写真が他館説明に誤って挿入されている〕
- ・ ———（1974）観光の大阪276号（1974年5月，大阪観光協会発行）〔表紙にオリエンテーションホールのナウマンゾウ写真，10頁に「大阪市立自然史博物館ひらく」として紹介〕
- ・ 館員執筆（1975）博物館研究。10巻2・3号〔当館の特集号。別刷は当館特別号として発行〕



（建物全景）

利 用 案 内

■ 館の利用

開館時間	午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分（入館は 9 時 30 分～4 時）
休 館 日	月曜日、祝日（ただし、日曜日と重なる祝日は開館）年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）
入 館 料	大人 100 円、小人（16 才未満）50 円、6 才未満無料（団体割引：30 人以上 1 割、50 人以上 2 割、100 人以上 3 割）
講堂・集会室等の利用	本館の事業目的に添った集会、催しについて利用できる。（「自然史博物館内部施設の使用規約」＜別掲＞による）
道 順	<ul style="list-style-type: none"> ● 地下鉄御堂筋線「長居」下車、東へ徒歩 800m（約 10 分） ● 国鉄阪和線「長居」下車 東へ 徒歩 1000m、（約 15 分） ● 市バス「長居東 6 丁目」下車北へ 200m（約 3 分）
所 在 地	〒546 大阪市東住吉区東長居町（長居公園内）電話（06）697—6221（代）
団体入館申込の方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 団体入館の場合は、あらかじめ電話等で連絡し、日時をとって下さい。 ② 引率者は、日時をとってから、引率指導のため、一度下見に来て下さい。（入館料無料） ③ 学校関係の引率者用に、パンフレット「引率の先生方に」を発行しています。（無料）

ト「引率の先生方に」を発行しています。（無料）

④ 入館料は、入館当日にいただきます

⑤ 大阪市内の小中学校、養護教育諸学校、幼稚園の先生が、校外学習の一環として園児・児童又は生徒を引率して入館される場合は無料になっています。事前に入館日時をとり「観覧料減免申請書」（別掲）を提出して下さい。（「大阪市立自然史博物館観覧料減免要綱」＜別掲＞による）

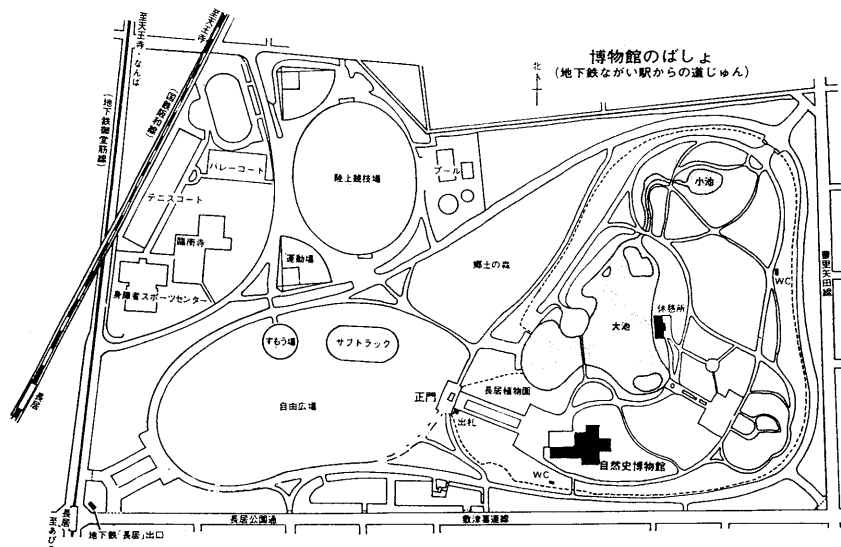
自然(史)科学に関する質問にお答えします。電話または、本館普及センターまでおこし下さい。

野外行事など各種の普及行事 自然に親しみ、自然への理解を深めるための社会教育活動として各種の野外観察会実習、講演会、映画会などの行事を開催しています。普及係までお問い合わせ下さい。

本館建物並びに館内・影、写生等については、「建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針」＜別掲＞により行ないます。

■ 「大阪市立自然史博物館友の会」の案内

大阪市立自然史博物館友の会（以下「友の会」）は自然史博物館を利用して、楽しく自然を勉強するための会です。どなたでも入会でき、会員には次のような



郷土の森では日本各地の樹木、長居植物園ではいろいろな植物が観察できます。

特典があります。

- 野外観察会、講習会、実習会、研究集会、映画会等催しものの通知が受けられます。
- “友の会”機関誌 Nature Study（月刊誌、動物昆虫、植物、地質など自然一般の解説記事や会員の研究発表、行事案内などを掲載）の配布が受けられます。
- その他、標本の同定、研究指導、図書や研究用具のあっせんなど、種々の便宜が受けられます。
- 映画会、講習会など自然史博物館での普及行事がある場合に限り、無料で入館できます。
会費は年額 2,000円（50年度以降）、入会金不要
会費は前納となっており、会期は1月～12月です。

○大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49.4.1 市条例 39
最近改正 昭51.4.1 市条例 61

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区東長居町に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (5) その他必要な事業

（観覧料）

第4条 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、6歳未満の者は、この限りでない。

2 観覧料は、次の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観 覧 料		
16歳未満の者	1 人	1 回	50円
16歳以上の者	1 人	1 回	100円

3 特別の展示をしたときの観覧料は、教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第5条 自然史に関する科学についての講演会、講習会その他に関し、博物館の講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、10,000円以内で教育委員会の定める使用料を前納しなければならない。

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

第6条 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料等の還付）

第7条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（職員）

第8条 博物館に、館長その他の必要な職員を置く。

（施行の細目）

第9条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例の施行期日は、市長が定める。

〔施行期日 昭49.4.2市告示120〕

附 則〔昭51.4.1市条例61〕

この条例は、公布の日から施行する。

○大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49.4.26 市教委規則 12
最近改正 昭51.4.1 市教委規則 15

大阪市立自然科学博物館規則（昭和32年大阪市教育委員会規則第16号）を次のように改正する。

（開館時間）

第1条 自然史博物館（以下「博物館」という。）の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（その日が日曜日にあたるとき、又

はその日が特別の展示をする日にあたるときで必要があると認める場合は除く。）

- (3) 12月28日から翌年1月4日まで
(入館の制限)

第3条 次の各号の1に該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 伝染性の病気にかかっている疑いのある者
(2) 他人に迷惑となる行為をする者
(3) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
(4) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
(5) 管理上必要な指示に従わない者
(6) その他支障があると認める者

(観覧)

第4条 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

- 2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

第5条 大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）第4条第2項の規定による観覧料は、次のとおりとする。

区 分	観 覧 料		
16歳未満の者	1人	1回	50円
16歳以上の者	1人	1回	100円

- 2 条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、500円以内でその都度教育長が定める。

(使用の申込み)

第6条 条例第5条第1項の規定によって、講堂の使用許可を受けようとする者は、所定の様式により、申し込まなければならない。

(使用の制限)

第7条 次の各号の1に該当するときは、講堂の使用許可をせず、又は許可を取り消し、若しくは使用を停止することができる。

- (1) 公安又は風俗を乱すおそれがあるとき
(2) 営利を目的とするとき
(3) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
(4) 管理上支障があるとき
(5) その他不適当と認めるとき

(使用料)

第8条 条例第5条第2項及び同条第3項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条 観覧料又は使用料の減免及び還付は、教育長が行なう。

(資料等の利用)

第10条 資料及び施設の利用については、教育長が定め

る。

(損害賠償)

第11条 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

第12条 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

第14条 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責を負わない。

(施行の細目)

第15条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則〔昭51.4.1 市教委規則15〕

この規則は、公布の日から施行する。

別表第1

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
講 堂		4,000円	6,000円	10,000円
附属設備	冷房設備	2,000円	3,000円	5,000円
	暖房設備	2,000円	3,000円	5,000円

備 考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、
「午後」とは午後1時から午前4時40分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

○大阪市立自然史博物館観覧料減免要綱

制 定 昭49.4.27

最近改正 昭49.11.1

第1条 この要綱は、大阪市立自然史博物館条例第6条及び大阪市立自然史博物館規則第9条の規定による観覧料の減免について定めることを目的とする。

第2条 博物館の入場者が30人以上の団体であるときは次の各号に定める割合の観覧料を減額する。

- (1) 入場者が30人以上の団体のとき1割
(2) 入場者が50人以上の団体のとき2割
(3) 入場者が100人以上の団体のとき3割

第3条 本市内の小学校（大阪市立弘済小学校及び大阪市長谷川小学校を含む）、中学校（大阪市立羽曳野中学校を含む）、盲学校、聾学校、養護学校及び幼稚園（以下「小学校等」という。）の教員が小学校等の

園児、児童又は、生徒を引率して博物館に入場しようとするときは、教員、児童及び、生徒の観覧料を免除する。

第4条 公益上その他特別の事由があると認めるときは減免する。

附 則

この要綱は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則

- この要綱は昭和49年11月1日から施行する。
- 昭和49年10月31日までに使用の申込みをした者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書	
大阪市教育長 殿 昭和 年 月 日	
所在地	
申請者 校 園 名	〒
校長 氏 名	印
次のとおり観覧料を減免下さるよう申請します。	
目 的	
日 時	昭和 年 月 日 午 前 時 分 から 後 時 分 から
入 場 人 員	引 率 者 外 名 児童数及び 名 学 年 別 名 合 計 名
減免申請の理由	(大阪市立自然史博物館条例第6条及び同施行規則第9条並びに大阪市立自然史博物館観覧料減免要綱第3条による)
減 免 額	無 料 ① x 人 ② 円
第 号	館 長 副館長 主 査 係 員
校 園 名	
校長 氏 名 殿 大阪市教育長	
次のとおり観覧料を減免します。	
昭和 年 月 日	
日 時	昭和 年 月 日 午 前 時 分 から 後 時 分 から
入 場 人 員	名
減 免 額	無 料 ① x 人 ② 円

○自然史博物館内部施設の使用規約

作定昭49.5

(趣 旨)

- 大阪市立自然史博物館条例第2条、第3条の趣旨にもとづき、市立自然史博物館（以下館という）の講堂集会堂、会議室、実習室その他館内施設（以下施設という）の使用に関して、次のとおり定めるものとする。（使用の範囲）

- 館の業務に支障がない場合に限り、次の各号に該当したときは、前項の施設を使用させることができる。

① 館の共催する行事及び普及指導に関連ある行事を行うとき。

② 前号のほか、館長が必要と認めたとき。

(使用の制限)

- 次の各号の一に該当するときは、施設の使用を許可しない。

- 使用目的が大阪市立自然史博物館条例第2条、第3条に添ぐわないとき。
- 公安又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- 営利を目的とするとき。
- その他不適当と認めるとき。

(使用手続)

- 施設を使用しようとするものは、所定の使用申請書を館長に提出し、許可を受けなければならない。

(使用料)

- 施設の使用許可を受けたものは、〔大阪市立自然史博物館規則〕第8条別表第1に掲げる使用料を前納しなければならない。

(使用者の責任)

- 使用者は当該使用に係る施設について、常に善良なる管理者としての注意を払って使用しなければならない。

- 使用者が前項の注意を怠り、館の施設、設備、備品等をき損し、又は滅失した場合には、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(使用許可の取消又は使用中止)

- 館長は次の各号の一に該当すると認めた場合は、その使用許可を取消し、又はその使用中止を命ずることができる。

- 申請内容にいつわりがあったとき。
- 使用契約に違反し、又は当館員の指示に従わなかつたとき。

昭和 年 月 日	
大阪市立自然史博物館長 殿	
申請者住所	
氏名(代表者)	
会議室、集会室、実習室、の使用承認申請書	
次のとおり 会議室 集会室 実習室 の使用承認を受けたいので申請します。	
使用日時	昭和 年 月 日 時から昭和 年 月 日 時まで
使用目的	
会の名称	
使用人員	名
備 考	
館 長 副館長 主 査 係 員	
昭和 年 月 日	
殿	
大阪市立自然史博物館長 殿 印	
会議室、集会室、実習室の使用承認書	
次のとおり 会議室 集会室 実習室 の使用を承認する。	
使用日時	昭和 年 月 日 時から昭和 年 月 日 時まで
使用人員	名
会の名称	

たとき。

- ③ 館において、当該施設を使用する必要が生じたとき。

9. 使用者は前項の処分に対しての異議申立て、又は損害賠償の請求をすることができない。

(原状回復の義務)

- ⑩ 使用後は、すみやかに原状に回復して返還しなければならない。

(使用日時の制限)

- ⑪ 施設の使用時間は、午前9時30分より、午後4時30分までとし、館の休館日に当る場合の使用は認めない。

○建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

作定 昭51.12

(目的)

1. この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真並びにテレビ撮影、写生について一定の規制規程をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(建物の撮影)

2. 建物の撮影については、次の各号に該当する事項をのぞいては、入園、入館者のさまたげにならない限り、特別に規制をもうけない。

- (1) 本館敷地内(公園局より占用使用許可を受けている建物より2m以内)において、純然たる商業目的で撮影する場合は禁止する。ただし、本館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果がある場合はこの限りではない。

- (2) 公園敷地での商業目的の撮影は、L大阪市公園条例Jの適用を受ける。(第4条、8条、16条等)

(館内展示室の撮影・写生)

3. 館内展示の撮影・写生については、次の各号に該当する事項をのぞいては、観覧者のさまたげにならず、かつ、展示資料の損傷にならない限り、特別に規制をもうけない。

- (1) フラッシュ・三脚などを使用して撮影する場合は、あらかじめ事務室に届出をうける。

- (2) 純然たる商業目的で撮影する場合は禁止する。ただし、本館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果がある場合はこの限りではない。

- (3) 絵具、フェルトペン、クレヨン、イーゼル、椅子を使用する写生は禁止する。

- (4) 児童、生徒などによる集団写生する場合は、あらかじめ事務室に届出をする。

(撮影・写生の許可願)

4. 第2項第1号ただし書き、第3項第2号ただし書き、同項第4条の場合は、あらかじめ撮影者等より許可願の提出をうける。

大阪市立自然史博物館 () 許可願	
昭和 年 月 日	
自然史博物館長殿	
(所在地) _____	
(会社・団体名) _____	
(代表者氏名印) _____	
(姓 名) _____	
次のとおり () を許可下さるようお願いいたします。	
日 時	昭和 年 月 日 () 午前 時 分 から 午後 時 分 まで
目 的	
場 所 展 示 資 料 物 品	
テレビの場合 の放映日時等	決 裁 館長 庶長 主査 係長

(建物並びに館内展示室の写真撮影等申請書)

○大阪市立自然史博物館友の会規約

規 定 昭30.5

最近改正 昭49.7.20

(名称及び事務所)

第1条 本会は、大阪市立自然史博物館友の会(略称友の会)といい、事務所を大阪市立自然史博物館(以下博物館という)内に置く。

(目 的)

第2条 本会は、博物館の事業に協力して、楽しく自然を研究し自然科学の普及発展に寄与するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行なう。

- (1) 博物館の事業に協力する。
- (2) 月刊誌“Nature Study”を発行する。
- (3) 随時、会合を行なう。
- (4) その他、本会の目的達成に必要な事業を行なう。

(会 員)

第4条 本会の趣旨に賛同する個人及び団体は会員となることができる。会員の種類は次のとおりとする。

- (1) 名誉会員 評議員会が推せんするもの。
- (2) 特別会員 評議員会が推せんするもの。
- (3) 賛助会員 本会を特に援助する団体または個人で年額1口10,000円を納めるもの。
- (4) 正会員 会費年額2,000円を納める個人および団体
本会の会員が会費を滞納したときは、退会したものと認める。

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長 1名、評議員会が推せんする。

副会長 2名 評議員会が推せんする。

評議員 若干名 会員の中から総会において選出する。

委 員 若干名 評議員の互選による。本会の庶務・会計・事業の三部門を分担執行する。

会計監査 2名 評議員会が推せんする。

(顧 問)

第6条 本会には顧問若干名を置くことができる。顧問は会長が委嘱する。

(会 合)

第7条 本会は次の会合を開く。

総 会 会長が年1回召集し、事業報告、会計報告、役員選出等を行なう。

評議員会 会長が必要の都度これを召集し、会務を協議する。

委員会 原則として月1回開催する。

(会員の特典)

第8条 会員は次の特典を受けることができる。

- (1) 博物館の諸指導行事の通知を受ける。
- (2) “Nature Study” の配布を受ける。
- (3) その他博物館で種名同定、研究指導等諸種の便宜を受けることができる。

(会 計)

第9条 本会の経費は、会費・寄付金その他の収入をもってあてる。

2. 会計年度は、1月に始まり12月に終る。

(規約の改廃)

第10条 本規約は、総会において改廃することができる。

(付 則)

第1条 この規約は昭和49年7月20日から施行する。

第2条 昭和49年度会費の金額については、第4条第4項の規定にかかわらず、この規約施行の際A会員であったもの1,500円、B会員であったもの1,000円とする。

ANNUAL REPORT
of the
Osaka Museum of Natural History
for the fiscal years
1972—1975

Nagai Park, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka, 546 Japan
